

Hello

we are NVLU

ニチジュウの研究力、結集



第1回 ニチジュウ シンポジウム 2018

主催 日本獣医生命科学大学 研究部 研究推進委員会



P.4 特集・ニチジュウ 特色ある研究 プロジェクト

- ・研究部長メッセージ
- ・ニチジュウの特色ある研究を支える組織と制度
- ・ニチジュウシンポジウム2018
- ・ニチジュウの特色ある研究とは
- ・「特色ある研究」プロジェクト 全27件
- ・大学院生に聞く！ニチジュウでの研究

【大学シンポジウム2018ワーキンググループ メンバー】

委員長：近江俊徳教授

田崎弘之教授、盆子原誠教授、有村裕教授、戸塚護教授、
清水和弘研究推進課長、高橋勝学長室・企画調査課長

P.14 武蔵野賞受賞者が語る「こんな生活しています」

P.16 梅野信吉賞 獣医保健看護学科 山本俊昭准教授

紫雲賞 ベストティーチャー賞 食品科学科 江草 愛講師

アクティブティーチャー賞 獣医保健看護学科 青木博史准教授

P.18 連載・スペシャリストへの道

- 【学生編】
- ・獣医保健看護学科 森笹柚香さん
 - ・食品科学科 小澤 仁さん

- 【卒業生編】
- ・富山県薬事総合研究開発センター 柳橋 努さん（2003年食品科学科卒）
 - ・公益財団法人日本小動物医療センター 三木 巴さん（2010年獣医保健看護学科卒）

P.22 [IR情報] データで読み解くニチジュウ

P.24 [News Topics] ニチジュウCAMPUS NOW

P.26 新任教員紹介

- ・獣医学科 獣医内科学研究室 鈴木亮平助教
- ・獣医学科 野生動物学研究室 田中亜紀助教

CONTENTS

Hello 
we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。
未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本
大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。
獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要が
あるのです。

「研究部のご紹介」

研究部長 田崎 弘之

研究活動に対する支援と産学連携活動による研究成果の社会還元を推進するために、日本獣医生命科学大学では、2018年4月に研究部を設置いたしました。

本学は、「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」という教育理念のもと、最先端の獣医学と動物の保健看護、産業動物の生産と供給、安全・安心な食品の流通と食育などをひたむきで真摯な姿勢で追究してまいりました。また、創立150周年を見据え、大学の基幹となる「建学の精神」「理念」「使命・目的」を再確認し、ミッション・ステートメント及び中長期計画「ニチジュウミライ図2016-2031」を策定し、重点施策の一領域として「社会貢献・産官学連携」でつなぐミライを掲げ、動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の研究における情報発信拠点となるべく、アクションを始めました。

学長のリーダーシップのもと研究を推進させるため、大学戦略会議及び研究推進委員会が既に設置されておりますが、研究部は、全学的な研究の推進・支援を行うため、学内の研究活動に対する支援と産学連携活動による研究成果の社会還元を積極的に展開してまいります。

ニチジュウの特色ある研究を支える組織と制度

◆ 研究部 研究推進委員会

研究部は研究活動の更なる活性を導く部門として2018年4月に新設された組織で、研究推進委員会は研究部で実際に学術研究に関するマネジメントを推進するための運営組織です。

研究推進委員会は月1回、研究推進についての全学的方針や大型教育研究装置等の管理に関すること、学内研究費や助成金関連事項、本学の研究支援体制の整備の研究倫理、研究費の適正使用に関する事項、研究成果報告などを審議しています。



平成30年度 研究推進委員会
阿久澤学長、田崎研究部長（大学院獣医生命科学部研究科長、大学院生命科学総合研究センター長）、
袴田生命科学共同研究施設長、田中生命倫理委員会委員長、堀動物医療センター倫理委員会委員長、
河上獣医学部長、藤澤応用生命科学部長、清水研究推進課長、盆子原教授、近江教授、有村教授、藤平教授、
佐藤（薫）准教授

◆ 研究推進委員会で支援・審議する事業

委員会では、本学の研究を推進するための様々な事業を行い、支援しています。

(1) 本学独自の事業

① 日本獣医生命科学大学特色ある研究プロジェクト

『One Healthに貢献する「生命・食・環境」を繋ぐ研究拠点の形成』のスタートアップとして、「生命」「食」「環境」の3本を柱に学内公募を行い、支援する。

② 若手研究者支援事業

科学研究費補助金（文部科学省と学術振興会が学術振興を目的として交付する研究助成費）に申請したうち不採択ながら審査結果の評価が高い研究者を支援する。

(2) 梅野信吉賞

若手研究者の奨励を目的とし、顕著な研究業績を挙げ本学の栄誉に貢献した教員を表彰する。

→P.16でご紹介します。

(3) 研究推進委員会で学内代表者を決定する事業 ※日本私立学校振興・共済事業団の事業

① 学術研究振興資金

私立大学等における学術研究のための設備の取得費・維持費、その他学術研究に要する経費を対象として、学術研究振興基金の運用益から配付される資金。

② 若手・女性研究者奨励金

優れた若手研究者や様々な事情からその能力を十分に発揮する機会が得られなかった女性研究者の研究に対する取り組みを支援する。



PICK UP

2018年度女性研究者
奨励金に採択
獣医学科 木邊量子助教

日本私立学校振興・共済事業団による2018年度若手・女性研究者奨励金において、本学の木邊量子助教の研究課題が「女性研究者奨励金」に採択されました。

本奨励金は、次世代を担う多様な研究者の人材育成を図るという観点から、特に女性研究者の活躍を促進するために交付する事業です。これまで出産や育児等、様々な事情によりその能力を十分に発揮する機会が得られなかった状況が存在することを勘案し、幅広い年齢層の女性研究者に対して研究機会の提供を図ることを目的としています。

（関連ニュース）木邊助教のメッセージはこちら！
獣医学科TOP > ニュース一覧 > 木邊量子助教の研究が平成30年度女性研究者奨励金に採択されました



◆ 研究推進課

研究推進課は、2018年4月に事務組織改組を行い、研究部とともに本学の研究推進に係る全学的取り組みの支援を行うため組織されました。

（キーワード）

・経常費補助金 ・科学研究費補助金 ・各種研究助成金
・受託研究 ・共同研究 ・知的財産 ・産学官連携協定
・研究全般（推進、支援体制、不正行為防止&公平性の確保等）

◆◆ 研究推進課 課員紹介 ◆◆

（左から）

大平幸子アシスタント・サポート・スタッフ

松田麻歩アシスタント・サポート・スタッフ

辻村友里アシスタント・サポート・スタッフ

太子幹雄課長

富永智史アシスタント・スタッフ

橋本さくら係長（知的財産推進センター）



コメント：研究活動における不正行為の防止及び公正性確保の観点から、共同・受託研究、科学研究費、各種研究助成事業など研究者のサポートをしています。上記キーワードで不明な点は研究推進課までどうぞ。

◆ 研究補助者

◆ RA（リサーチ・アシスタント）

RA（リサーチ・アシスタント）制度は、本学の研究支援体制の充実、強化並びに大学院学生が研究プロジェクトにおける研究補助を行うことにより若手研究者としての研究遂行能力の育成のため、2019年度より新規導入された制度です。

獣医学専攻博士課程の大学院生と獣医保健看護学専攻・応用生命科学専攻博士後期課程の大学院生の希望者をRAとして採用します。

◆ PD（ポスト・ドクター）

PD（ポスト・ドクター）制度は、本学が行う学術研究を担い、かつ、創造性に富んだ研究者の育成を図るための制度です。

PDは博士の学位を取得し、優れた研究能力を有し、研究に専念することを希望する者の中から、研究プロジェクトにおいて、一定の職務を分担して研究に従事します。

「日本獣医生命科学大学特色ある研究プロジェクト」……………

One Healthに貢献する「生命・食・環境」を繋ぐ研究拠点の形成
～人と動物が安心できる暮らしを目指して～

本学の特色ある研究プロジェクトは、人と動物が安心できる暮らしを実現するためOne Healthの理念に基づき「生命・食・環境」をつなぐ研究拠点を形成し、日獣大オリジナルの研究を起点に、動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報を発信する大学を目指すことが根本にあります。

2018年度はじめ、学長から、本学の研究を通したブランディング戦略として、『One Healthに貢献する「生命・食・環境」を繋ぐ研究拠点の形成』を進める指示が出され、スタートアップとして、「日本獣医生命科学大学特色ある研究」プロジェクトが始まりました。まず、4月に本学のブランディング戦略に沿った研究テーマの学内公募を行い、応募のあった27件の採択を行い、12月には、その研究内容の紹介を主とした第一回ニチジュウシンポジウム2018を開催いたしました。これらの「日本獣医生命科学大学特色ある研究」は、「人と動物の生命はひとつ」を合言葉に、《生命》①がん②神経・内分泌③血液・免疫・遺伝、《食》①機能性食品②栄養・代謝③美味しさ・味覚、《環境》①復興・野生動物②感染症③食の安全の3つの柱に関わる研究テーマを支援していきます。さらに、同一学校法人にある日本医科大学とも学術連携し、医学と獣医生命科学の都市型総合学園としての発展を目指します。





ニチジュウの特色ある研究を通じた交流とさらなる発展へつなぐ

◆第1回 ニチジュウシンポジウム2018

ニチジュウシンポジウム2018は、学内において日々行われている様々な分野の研究を一同に会し、研究を軸に教員、教職学協働で盛り上げられる機会にすること、そして本学の特色ある研究の取り組みを推進することを目的に研究推進委員会と実行組織である大学シンポジウムワーキンググループで企画し、開催されました。

第1回ニチジュウシンポジウム2018

日時 2018年12月7日（金）13時00分～
場所 日本獣医生命科学大学E棟1階111講義室

【大学シンポジウムワーキンググループ メンバー】

委員長：近江俊徳教授

田崎弘之教授、盆子原誠教授、有村裕教授、戸塚護教授、

清水和弘研究推進課長、高橋勝学長室・企画調査課長

当日は、学部1年次学生から教職員まで多くの来場者合計156名（教員72名、学生72名、職員12名）が参加しました。

研究部（研究推進委員会）では、今後も学外、国外の研究者と交流する場、在学生・卒業生・市民を対象とした研究発信の場として様々なシンポジウムの開催を予定しています。

【プログラム】

1. 学長挨拶
シンポジウム趣旨説明：研究推進委員会
2. ニチジュウシンポジウム（講演）
（1）「犬猫におけるてんかん外科実現に向けて：過去と未来」
獣医学部獣医学科 長谷川大輔
（2）「腸管上皮細胞の培養系構築と食品成分による機能制御」
応用生命科学部食品科学科 戸塚 護
3. 一般発表
4. 表彰式（学生優秀発表賞）
5. 研究交流・懇親会 場所：カフェテリア「むらさき」

※一般発表詳細

【教員】

- （1）ウイルスは環境でどう存続するか？動物種間で繋がるか？
－感染 制御に向けた分子疫学・生態学的研究
青木 博史（獣医保健看護学基礎部門）他
- （2）犬の歩行動作における各関節の役割に関する研究
（関節角度に関する考察） 原田 恭治（獣医外科学）他
- （3）イヌ乳腺腫瘍細胞株で生じたp53遺伝子変異の検出と機能解析
落合 和彦（獣医保健看護学基礎部門）他
- （4）小学校3年生を対象とした「馬の授業」が子どもに及ぼす影響
－三鷹市の事例から－
柿沼 美紀（比較発達心理学）他
- （5）ネコAB式血液型を担うCMAH遺伝子変異の同定とその応用
近江 俊徳（獣医保健看護学基礎部門）他
- （6）Voxel-based morphometryを用いた家族性自然発症性てんかん猫に対する脳構造解析
濱本 裕仁（付属動物医療センター）他
- （7）都市域に生息する野生動物の保護管理方法の確立に向けた研究
山本 俊昭（獣医保健看護学応用部門）他
- （8）低加圧二酸化炭素マイクロバブルの殺菌効果と細胞損傷の関係
小林 史幸（食品工学）他
- （9）犬悪性黒色腫細胞化細胞におけるがん幹細胞の同定および特性解析
道下 正貴（獣医病理学）他
- （10）エキゾチックアニマルとコクシジウム感染症
常盤 俊大（獣医寄生虫学）他

【学生】

- （11）犬の肥満細胞腫細胞株を用いたトセラニブ耐性化機構の解析
栗田 晟那（獣医学専攻）他
- （12）海産魚類ヒラメのMHCクラスⅡ陽性細胞について
宮下 素優（獣医学科）他
- （13）腎肥大を伴う新規の2型糖尿病モデル動物
土門 綾華（獣医学専攻）他
- （14）精米と炊飯における米の放射性セシウムの動態
富田 樹（食品科学科）他
- （15）マウスへの線虫C. elegans投与によるIgE産生機序の解析
後藤 夢実（応用生命科学専攻）他
- （16）てんかん外科 - 皮質および海馬切除 - を適応した難治性てんかん猫の1例
浅田 李佳子（獣医学専攻）他
- （17）野生化アライグマにおけるマダニ拡散リスクに関する研究
土井 寛大（獣医学専攻）他
- （18）二酸化炭素マイクロバブルによるα-アミラーゼの失活
中島 理沙（食品科学科）他
- （19）IDH1イヌホモログの新規変異が機能におよぼす影響の検討
川上 翔太（獣医保健看護学専攻）他

・ふうちゃん基金

ニチジュウシンポジウムでは、「ふうちゃん基金」の贈呈式も行われました。

宮城県東松島市在住の星山悦子さんの愛犬ふうちゃん（マルチーズ♀）は震災前年の2010年4月7日に11才6ヶ月で亡くなりました。ふうちゃんは、5才から特発性てんかんと診断され、宮城県石巻市にあるあべ動物病院に通院していました。星山さんはふうちゃんが亡くなった後、毎月、月命日前後に通院していたあべ動物病院を来院し、「動物達のために役立ててください」と8年間寄付をしてください、この度、本学の「特色ある研究プロジェクト」のひとつ、「てんかん研究」の代表者である、長谷川教授にあべ動物病院とご協力のうえ寄付をしてくださることになりました。

また、星山さんとあべ動物病院には同日、学長より感謝状の授与を執り行いました。



学長室にて、星山さんとあべ動物病院へ学長より感謝状を授与
※2018年12月7日（シンポジウム当日）は、ふうちゃんの月命日でした。



シンポジウム中に行われた「ふうちゃん基金」の贈呈式



（中央右）8年間愛犬ふうちゃんの月命日に寄付をしてくださった星山悦子さん
（左）あべ動物病院の阿部俊範院長（本学卒）と阿部容子先生
（右）ふうちゃん基金の贈呈を受けた「てんかん研究」の代表者
獣医放射線学研究室の長谷川教授

・学生優秀発表賞



研究交流・懇親会（カフェテリア「むらさき」）の様子①
▼武蔵境ゆかりの料理で研究交流

犬の肥満細胞腫細胞株を用いたトセラニブ耐性化機構の解析

研究代表者：栗田晟那
大学院獣医生命科学研究科 獣医学専攻博士課程4年次
（獣医臨床病理学研究室）

学生優秀賞は、学生の研究に対するモチベーション向上を目的とし、発表の内容のみならず、プレゼンテーション能力等を考慮し、総合的に優秀な発表をした学生に贈られる賞です。

学長、大学院研究科長、専攻主任、学部長、学科長、研究推進委員会委員、大学シンポジウムワーキング委員、シンポジスト及び事務部部長の計22名によって選考されました。

【研究内容】

肥満細胞腫は犬の皮膚に好発する悪性腫瘍であり、近年では分子標的治療が行われています。肥満細胞腫の一部は細胞増殖に関与するチロシナーゼに変異を持ち、そのような症例にはトセラニブが奏効します。しかし多くの症例で、最終的に耐性を獲得することが問題になっています。今回我々は、トセラニブ耐性を持つ肥満細胞腫細胞株を作成し、耐性獲得メカニズムを検討しました。次世代シーケンサーを用いて細胞株の遺伝子を詳細に解析すると、トセラニブ耐性細胞株のゲノムDNAに新たな遺伝子変異が生じており、この遺伝子変異がトセラニブ耐性の一因であることがわかりました。また細胞株の培養過程でいくつかの遺伝子変異パターンが認められ、トセラニブ暴露後はさらに多くのパターンが認められました。今回の研究から、犬の肥満細胞腫は増殖過程で細かな変異を蓄積しており、トセラニブに暴露されることで変異の出現が加速し、トセラニブ抵抗性の遺伝子変異を持つクローンが生じたことがわかりました。



獣医学専攻博士課程
4年次栗田晟那さん

研究交流・懇親会（カフェテリア「むらさき」）の様子②
▼学生代表への御礼と学生優秀発表賞の表彰



人と動物が安心できる暮らしを目指して

◆ニチジュウの特色ある研究 とは…

——「特色ある研究」とありますが、本学の“特色”とは何だとお考えですか？

田崎 本学は4学科で構成されており、それぞれの研究の特徴はまず「生命」に起源しています。また、食品科学科をはじめとして「食」に関しての研究を行っています。“food”だけでなく“feed”、人だけでなく動物の食べ物に関しても行っているのが本学の特色です。3つめに、野生動物教育研究機構が学科を横断して設置されています。獣医学科に野生動物学研究室があるのは本学が日本初なんです。そういうところから「環境」にも着目しました。ですので、特色というよりは「生命・食・環境」。この三本柱だと思っています。

長谷川 ちょっとずれてしまうかもしれませんが、本学の付属動物医療センターは他大学の付属病院より研修医が多く、比較的人気が高いんですよ！なぜなのか研修医に理由を聞くと「横のつながりが強い」からだそうです。確かに伝統的に皆仲が良いですね。例えば僕が担当している神経科に皮膚科の患者さんが来たら、その場でパトタッチできる体制ができています。他の大学病院ではもう一度予約を取り直さなければいけないと受診できないところが多い。横のつながりが強いからこそ、できることですね。また、病院の仕事だけでなく、研究に関しても同じことが言えますね。機器の貸しあいなども結構スムーズにできていますね。そこまで大きくない大学だからこその良い点だと思います。

戸塚 確かに横のつながりの強さはすごく感じますね。学科をまたいで協力しあえているのはすごく良いところだと思います。全体がつながっている感があります。



付属動物医療センターにおける人気の秘密に本学の特色があったことがわかりました。

鶏肉を食べてから脳機能の検査をする脳老化の改善がみられる話を戸塚教授から聞いて、「脳の研究センターにイイですね！」と喜ぶ長谷川教授



——「生命・食・環境」をつなぐ研究拠点として、「こんなだったら研究がやりやすい！」「こういうことをしたい！」など理想像はありますか？

近江 大きな研究センターがあったらいいと思います。同じ理念を持った人たちが集まれるうかが欲しいですね。すぐに話し合える、情報を共有しあえる、そういう環境を整えることがまず大切なこと。

戸塚 確かにそんな研究センターが理想です。先ほど話に上がっていた横のつながりもより強く感じられそうですね。ハード面の充実、期待しています。

有村 ソフト面でいうと、一緒に研究する人がどんな人かも大切ですね。元気な人、積極的な人と一緒に研究したいなあ（笑）



——人と動物が安心できる暮らしとはどんな暮らしだとお考えですか？

有村 「安心」より「幸せ」という点でいうと、人に対する理解、動物に対する理解、あらゆるものに対する理解が増えると充実感が増えて人も動物も「幸せ」に感じるのかもしれないですね。

近江 獣医療を通して動物の不安を取り除くことができたなら幸せです。また、オーナーである人の健康も提案できるのが大学のひとつの特色だと思っています。



「生命」と「環境」をつなぐ研究をする近江教授

“つなぐ”は本誌及びニチジュウのキーワード。つなぐ研究の発展を期待しています。

——現在、若手の先生方は組織を横断した研究を行っていますか？

長谷川 なかなかできていないと思いますね…

田崎 今は“学科”という組織に縛られ過ぎているような気がします。“学科”は教育のための組織であり、研究のための組織ではない。その枠組みから抜け出るような研究拠点を作る必要があるのかもしれないと感じています。

近江 そもそも先生同士の交流の機会がなかなかないんです。誰が何をやっているか知る機会が必要ですね。

田崎 そういう意味では、ニチジュウシンポジウムは有効的だったのではないのでしょうか。学内でどのような研究が行われているか、教職員、学生の知る機会としては絶好の機会だったと感じています。「特色ある研究」については今後も支援していきたいですね。



研究部長

Hiroyuki Tasaki
田崎弘之 教授

ニチジュウの特色ある研究を代表して「生命」「食」「環境」から代表的な研究を行う教員4名と、本学の研究を牽引する研究部長にお集まりいただき、本学の特色や研究、先生方の研究や研究活動などについて伺いました。

研究テーマ
Animal Brain Research Center (ABRC) の設立

解剖学・生理学・薬理学・病理学・分子生物学・そして臨床的な脳外科学や脳神経内科学・行動学など多岐に渡る分野で行われている動物たちの脳機能や脳疾患の研究を統合して脳機能の解明に貢献する研究プロジェクト。

——プロジェクト名の冒頭部分をVeterinary か Animal で悩みのようですが、理由を教えてください。

獣医学分野を中心に研究していますが、本学は動物のプロフェッショナル集団なので、動物全般の脳の研究センター（Brain Research Center）の設立を目指しています。Veterinaryの方がカッコいいと言われたり、AnimalとすればABCとなって覚えやすいかなと思ったり（笑）



「生命」代表

Daisuke Hasegawa
長谷川大輔 教授

研究テーマ
アレルギー疾患の発症機序に関する多角的な研究

アレルギー反応が成立するまでの行程や原因に着目し、世の中にはアレルギーになりやすい人となりにくい人の違い、アレルギー性疾患のうち、ある程度知見は集まっていますが、根本原因が分からないこと、仮説があるけれど結論が出ていない問題などを解き明かしていく研究プロジェクト。

——シンポジウムでは研究室の大学院生が発表していましたが、学部学生はどんな研究を担っているのでしょうか？

基本的に一緒に免疫の研究をしていますけど…、学生数が多いので、現象や疾患、細胞の種類ごとに分担して研究してもらっています。気持ち的にはアレルギーを中心に担ってもらいたいかな？



「生命」代表

Yutaka Arimura
有村 裕 教授

研究テーマ
腸管オルガノイドを用いた食品成分の腸管機能調節作用評価系の構築

食品由来の成分が免疫系の調節機能を示すのは腸管上皮細胞に対する作用を介してその機能を発揮するとの仮説に基づき、腸管オルガノイドという組織体を利用して免疫調節に関する食品成分の作用メカニズムを明らかにする研究プロジェクト。

——様々な生活習慣病や脳の機能低下を予防できるのは薬ではなく食品だとのことですが、具体的な食品を教えてください。

鶏肉ですね。以前、高齢者に鶏肉エキスを食べてもらう前後で脳機能の検査をした結果、言語記憶が改善するということがわかりました。鶏肉に多く含まれている成分（イミダゾールジペプチド）が炎症を抑えることで、脳老化を改善したと考えています。



「食」代表

Mamoru Totsuka
戸塚 護 教授

研究テーマ
血液型物質を標的とした感染症・がん研究の基盤形成

A型O型など細胞膜表面に存在する血液型物質は細菌やウイルスの最初の標的になるという考えに基づき、感染症・がんなどの関係をより明らかにし犬や猫における疾患の予防、検査、治療に貢献する研究プロジェクト。

——「環境」のイメージが野生動物や植物・水などでしたが、先生の研究テーマを「環境」とカテゴライズした理由を教えてください。

実際は「生命」と「環境」を繋ぐテーマでどちらにも当てはまるのですが、「環境」にしたのは、ウイルスが血液につくって病気を起こすという自分の体以外の影響を研究しているからです。外からの影響の「環境」と結びつけられれば血液型の科学として面白いかな。

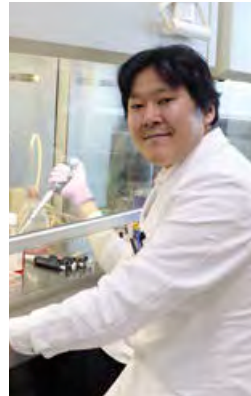


「環境」代表

Toshinori Omi
近江俊徳 教授

『One Healthに貢献する「生命・食・環境」を繋ぐ研究拠点の形成』のスタートアップ

◆「特色ある研究」プロジェクト 全27件



PICK UP Data

担がん犬における骨髄由来抑制細胞を標的とした新規治療候補薬の探索

- 田村恭一（獣医臨床病理学研究室）

骨髄由来抑制細胞の免疫抑制機能制御を目的とすることでがんに対する新たな治療コンセプトを提示し、新しい抗体代替薬の開発に貢献する研究プロジェクト。

——担がん犬とはがんを患っている犬ということですが、先生の研究ではどんながんを研究されているのでしょうか。教えてください。

本来、がん細胞は毎体のなかで発生していますが、自身の免疫が見つ次第がん細胞を殺すことでがんの増殖を抑えていると考えられています。しかし、様々なメカニズムでがん細胞がこの免疫による監視をくり抜けて増殖し、がんとして顕在化します。また、がんの種類により、その免疫抑制機構は異なると考えられることから、現在、特定のがん種にフォーカスしてはならず、悪性黒色腫、扁平上皮癌、乳腺癌、移行上皮癌など、さまざまな犬のがんを包括的に研究しています。将来的に、がん種ごとに効果が期待される治療候補薬を特定していく予定です。

Animal Brain Research Center の設立

- 長谷川大輔（獣医放射線学研究室）

犬や猫の脂肪由来間葉系幹細胞を用いたインスリン産生細胞への分化誘導と機能解析

- 手嶋隆洋（獣医内科学研究室）

糖尿病モデル動物としてのスunks(*Suncus murinus*)

- 佐々木典康（獣医生化学研究室）

四足歩行動物の動作解析法の開発

- 原田恭治（獣医外科学研究室）

新規グルコース取込み阻害薬の検索および治療薬としての可能性の検討

- 神田秀憲（獣医薬理学研究室）

腸管オルガノイドを用いた食品成分の腸管機能調節作用評価系の構築

- 戸塚護（食品機能化学教室）

高齢者の咀嚼力維持用の機能性食肉製品作出のための基盤研究

- 松石昌典（食品化学教室）

PICK UP Data

二酸化炭素マイクロバブルの乳加工への適用

- 小林史幸（食品工学教室）

二酸化炭素マイクロバブルを新たなチーズ製造技術として展開するための研究プロジェクト。

——二酸化炭素マイクロバブル技術×清酒（瀬祭早田）が成功したことは有名ですが、二酸化炭素マイクロバブル技術×チーズに着目したきっかけを教えてください。

瀬祭早田は、二酸化炭素マイクロバブルにより殺菌と酵素失活を行った清酒です。この酵素失活は二酸化炭素マイクロバブルにより、タンパク質である酵素の構造が変化することで起きます。二酸化炭素マイクロバブル装置を使って牛乳の殺菌を試みた際に、装置内に牛乳を入れたまま忘れて放置していたら牛乳中のタンパク質が変性してカッテージチーズのように凝集したので、この効果を利用することで新しい乳加工品ができないかと考えました。



日獣大ビーフ(仮称)の生産体制構築とブランディング

- 柴田昌宏（動物栄養学教室）

アレルギー性疾患の発症機序に関する多角的研究

- 有村裕（動物生体防御学教室）

新たな免疫応答の場を探る—既知リンバ組織を持たない魚類からのアプローチ—

- 倉田修（水族医学研究室）

難治性癌の癌幹細胞標的治療薬の探索

- 道下正貴（獣医病理学研究室）

ヒスタミン合成酵素Histidine decarboxylase欠損マウスを用いた、生体の機能維持及び形態形成におけるヒスタミンの役割に関する研究

- 大塚裕忠（獣医解剖学研究室）

イヌAR複合体を起点としたホルモン療法抵抗性前立腺がん診断・治療戦略の創出

- 落合和彦（獣医保健看護学基礎部門）

生命

近隣公園・大学付属牧場のモグラ類を利用した、視覚退化動物の匂い受容機構の解明

- 中田友明（比較動物医学研究室）

ニドウイルス目のウイルス複製制御を担うウイルス側因子および細胞側因子の同定とその機能解析

- 田中良和（獣医衛生学研究室）

日本国内の犬における呼吸器疾患の疫学調査および呼吸器疾患の病態解明への応用

- 藤原亜紀（獣医放射線学研究室）

動物種間を越えた環境に潜む感染因子の疫学・生態学とその制御に関する研究

- 青木博史（獣医保健看護学基礎部門）

環境

血液型物質を標的とした感染症・がん研究の基盤形成

- 近江俊徳（獣医保健看護学基礎部門）

都市域に生息する野生動物の保護管理方法の確立に向けた研究

- 山本俊昭（獣医保健看護学応用部門）

人の生活圏における野生動物とマダニ類の関係性と感染症伝播のリスク分析

- 加藤卓也（野生動物学研究室）

輸入野生動物が保有する寄生虫病のリスク分析に関する研究

- 常盤俊大（獣医寄生虫学研究室）

PICK UP Data

国産肉用乳用種の資源確保に関する畜産経営学的アプローチ—「キタウシリ」を事例の中心として—

- 小澤壮行（システム経営学教室）

北海道チクングループでは乳牛（ホルスタイン）の子雄をヘルシーな「キタウシリ」として生産している。畜産経営学的視点から生産システムを研究・分析することで日本の肉用乳用種資源の確保を探る研究プロジェクト。

——「キタウシリ」はどこで購入ができますか？

残念ながら「キタウシリ」は「生活クラブ生活協同組合」でそれに近い牛肉はありますが、購入することはできません。また北海道内でも極めて限られた範囲で購入が可能です。今後は都府県においても美味しくて信頼のおける生産システムによって産出された「キタウシリ」が手元に届くように努力をしているとのことです。



PICK UP Data

ウイルス感染症の生ワクチン候補株の作出

- 塩川舞（獣医保健看護学基礎部門）

豚コレラウイルスの弱毒化を参考に、牛ウイルス性下痢ウイルス感染症における“本学発”生ワクチン用ウイルス株の作出を目指した研究プロジェクト。



——「本学発」または「本学が開発に携わった」ワクチン株の作出ということですが、こだわりのニチジュウポイントを教えてください。

現在日本で製造されている動物用生ワクチンの中には、ウイルスの感受性の高い初代細胞を使用して作製するものもあります。

初代細胞を作るために動物の命を奪うことになるので、初代細胞ではなく、無限に増殖できる株化細胞を使用してもっと簡単にウイルスの弱毒化を行いたいと思っています。

動物の命をなるべく奪わない、実験室内で収まるような実験系でウイルスの弱毒化を目指すことがポイントです。

研究者のタマゴ
大学院生へ
インタビュー

大学院へ進学して研究を続けているきっかけや、どんなことを研究し、どんな生活を送っているのかを聞きました！

大学院生に聞く！
ニチジュウでの研究

——なぜ大学院に進み、研究の道を選んだのですか？
きっかけを教えてください。

そもそものきっかけは原産地のカナダでアライグマを見てきた経験から、日本にいるアライグマとの違いに着目したことがマダニの研究を始めたきっかけでした。この卒業論文研究から解明できたことがある中で、新しく出てきた疑問もたくさんありました。この疑問についてもっと突き詰めて研究したいと考えたことが大学院進学の一歩の理由です。

——大学院に進んでよかったと思うことはありますか？
研究に時間を注げることです。特に野外調査にかけられる時間を増やすことができるようになったことはよかったと思います。

——現在の研究内容を教えてください！
野生動物とマダニの関係性について研究しています。最近では重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの病気が話題になって、一般の方でもアウトドアでの注意やペットでの被害などに警戒されることが多くなっています。しかし、そもそも何故そこにマダニがいるのか？という疑問への答えは野生動物がそこにマダニを運んだからということになります。日本には約45種類のマダニが生息しており、宿主である動物に適応して進化してきた生き物です。すなわち、マダニの生息は野生動物がその環境を利用したかどうかによって大きく左右されると考えられます。

現代では外来生物や人里に生息環境を適応させた

アライグマやシカ、イノシシなどの動物が存在します。では、この動物たちが我々の生活圏にどのようにマダニを運ぶのか？その時、病気を運ぶリスクはどれほどあるのか？を探るといった感染症生態学的研究が、この研究の目的です。学部卒業論文研究を含め、これまでには外来種アライグマとマダニの関連性について焦点を当てていましたが、大学院からは動物種を増やして、アライグマと同サイズのタヌキやアナグマのような中型動物、シカやイノシシのような大型動物も視野に入れて調査を行っています。

マダニの調査は2種類あり、ひとつは動物に寄生しているマダニを採取する方法、もうひとつは茂みや落ち葉の中にいるマダニを採取する方法です。私の研究ではどちらも行っています。さらに、動物側の要因を探るために、捕獲情報や、自動撮影カメラ、痕跡調査などのデータから、その動物がどのくらいその場所に生息しているか、利用しているかの調査も行っています。

——学部生時代と現在では、研究室生活も含めて、違いはありますか？

野外調査の時間を増やすことができるようになったので、マダニ採取調査や、野生動物調査するために野外で活動する時間が増えました。採取する機会が増えた分、研究室に在室する日は顕微鏡でマダニを見る時間が増えています。

——野外調査はどちらに行くことが多いですか？
近場だと三浦半島や丹沢（いずれも神奈川県）、



川上 翔太
(Shota KAWAKAMI)
2017年3月
獣医学部 獣医保健看護学科 卒業
2019年3月
獣医生命科学研究科
獣医保健看護学専攻
博士前期課程 修了
2019年4月
興和株式会社（学術職）就職

奥多摩、群馬県に日帰りや1泊することが多いです。あとは少し遠いところだと、島嶼部（東京都）に行きます。その時は1週間ほど滞在します。

——同じ研究をしている方と知り合う機会などは増えましたか？

学会への参加や研究会、ワークショップを通じて新たに知り合った方も多くいます。特にマダニ研究では医学分野や動物学分野、社会科学分野など関連分野も出身国も様々で、いろいろなところに研究仲間ができたことは進んで様々な会に参加できるようになったからと思います。

——大学院卒業後は、どのようなことをしたいですか？
夢を教えてください。
野生動物に関する分野で、特に感染症生態学に携わる研究職を目指したいと考えています。

土井 寛大(Kandai Doi)
2018年3月
獣医学部 獣医学科 卒業
2018年4月
獣医生命科学研究科 獣医学専攻
博士課程 入学
現在 同2年次在学

マダニの生息を調査し、野生動物の生態を探る
獣医学専攻(D2) 土井 寛大遺伝子解析から、イヌのグリオーマの治療へ
獣医保健看護学専攻(M修了) 川上 翔太

＊グリオーマ：神経膠腫（しんけいこうしゅ）は、悪性の脳腫瘍の1つ

——現在お仕事をしながら大学院に通われていますが、そのきっかけはなんですか？

職場では、遺伝子改変動物の作製や体外受精などの生殖工芸技術支援や実験動物の飼育管理を行っています。これらの業務を行う中で、他教室、他大学の先生方と打ち合わせする機会があり、その度に自身の知識不足を痛感し、勉強が必要であると感じました。また、いつかは自分で遺伝子改変動物を作製し研究を行いたいと思い、大学院進学を考えるようになりました。その中で、職場の教授から大学院への進学を勧められたため、大学院に進みました。

——大学院に進んでよかったと思うことを教えてください。

大学院に進み、研究を行うことの大変さと、ポジティブな結果が出たときの喜びを知ることが出来て良かったと思っています。なかなか思うような良い結果が出ない事も多く、実験によっては1日かかることや休日に被ることもあり、精神的にも肉体的にも辛くなった時期がありました。しかし、ポジティブな結果が出たときは、喜びが苦しみにも勝り達成感で満ち溢れます。この貴重な経験を体験出来て良かったと感じています。

——現在どのような研究をしていますか？

疾患の原因解明や治療法開発を目的に研究を行っています。腫瘍や遺伝性疾患などは特定の遺伝子変異が原因で発症しますが、その疾患の原因と考えられる遺伝子変異を有する遺伝子改変マウス（疾患モデルマウス）を作製し、そのマウスの病態の解析を行っています。そして、疾患発症の原因を分子レベルで理解し、その知見をもとに新たな治療法の開発を試みています。

近年、腫瘍をはじめとした多くの疾患でエビジェネティク

ス（遺伝子配列の変化をともなわずに次世代に伝わる遺伝子発現制御の仕組み）に関連した遺伝子の変異が見出されています。私は、このエビジェネティクスに關与する遺伝子におきる変異の疾患発症における役割に着目して、これらの変異をもつ遺伝子改変マウスを作製、解析を行い、疾患克服を目指しています。

——学部生時代と今現在では、なにか違いはありますか？

研究への姿勢が変わったと感じます。学部生の頃は自分の研究テーマという自覚が足りないような部分がありました。しかし、大学院生になって自発的に実験を行ったり、勉強しなければ、何も研究が進まない状況になり、積極的に行うようになりました。また、様々な専門の先生方が関わることによって責任感が増し、より良い研究を行っていくと強く感じるようになりました。現在は仕事との両立もあり、研究室には夜や土日に行くことが多く、休みを取ることが難しいときもありますが、効率よく進める事を常に考えて行っています。

——大学院卒業後、どのようなことをしたいですか？夢を教えてください。

卒業後は、現在行っている研究テーマをさらに深く調べて行きたいと考えています。そして、いつかは自分の研究のために自分で遺伝子改変動物を作製し、人に役立つ何かを発見出来たら良いなと考えています。

の構造や機能を解析し基礎的知見の蓄積を行いました。さらに実際イヌの腫瘍組織からIDH 1 遺伝子変異の検索を行い、そこで発見した変異が生体内で引き起こす機能変化・腫瘍発症に繋がるメカニズムの解析を鋭意遂行しております。

——学部生時代と現在では、研究室生活も含めて、違いはありますか？

研究に割ける時間が多くなりました。また、後輩に実験を教える機会が増えたため、先生とのディスカッションや後輩への指導を通して自分の知識の整理、相手に分かりやすく伝えるスキルを身に付けることができました。大学院生として、社会に出ても必要なマナーやコミュニケーション能力、プレゼン能力を磨くことも意識し、日々目標を持って2年間を過ごしました。その甲斐あって、私自身も技術面、精神面ともに成長を感じています。

——大学院卒業後の夢を教えてください。

大学院卒業後は製薬企業で学術職として働く予定です。学術職は病院の先生に対して医療情報の提供を行い、医薬品を使用していたいただくためのプレゼンをするので、論文等のエビデンスに基づく確かな情報と高度な知識が要求されます。これまでに培った論文を読む力や相手に分かりやすく説明する力、学会発表で身に付けたプレゼン能力をいかに発揮して、人々の健康を支えていきたいです。

小泉 美穂
(Miho KOIZUMI)

2013年3月
応用生命科学部 動物科学科 卒業
2013年4月
学校法人東京女子医科大学
実験動物中央施設（現：実験動物研究所）
に実験動物技術者として入職
2018年4月
獣医生命科学研究科 応用生命科学専攻
博士前期課程 入学
現在 同2年次在学

遺伝子変異の謎に迫り、疾病治療に貢献する
応用生命科学専攻(M2) 小泉 美穂

武蔵野賞受賞者は語る

こんな生活しています

受賞者一覧

武蔵野賞

ニチジュウの特待生制度の名称。
各学科各学年で、学業成績が特に優秀で人物が優
れている3名に対し与えられます。
受賞者は、特待生として翌年次の学費の一部が免除
されます。

- 首席：授業料と実習費の2分の1が免除
- 次席：授業料と実習費の4分の1が免除

武蔵野賞受賞者42名の皆さん
おめでとうございます。

本日は、特に首席学生14名の皆
さんに、武蔵野賞へのエッセンスを
聞いてみたいと思います。
よろしく願いいたします。

獣医学科

2年次首席：中山夏那さん
3年次首席：徳長ゆり香さん
4年次首席：漆山尚也さん
5年次首席：河西晴子さん
6年次首席：後藤智紗子さん

獣医保健看護学科

2年次首席：駒村衣美さん
3年次首席：石田悠華さん
4年次首席：岩本杏さん

動物科学科

2年次首席：永尾文哉さん
3年次首席：鈴木円香さん
4年次首席：竹口潤さん

食品科学科

2年次首席：青木達哉さん
3年次首席：増田紗也さん
4年次首席：根本香穂さん

次席：清水紀里子さん、永江周平さん
次席：鉄治慶さん、田原果凜さん
次席：林竜吉さん、漆山文也さん
次席：吉田茂絵さん、大竹陽奈さん
次席：谷川奈那恵さん、小林拓矢さん

次席：阿久津史歩さん、田中美有さん
次席：鈴木遼太郎さん、石田南さん
次席：丸山夢翔さん、松本朱莉さん

次席：花島季さん、関千晶さん
次席：服部愛さん、佐藤友利香さん
次席：稲垣朋伽さん、秋田朋子さん

次席：小林大河さん、原 巧さん
次席：中村日奈さん、坂下帆乃夏さん
次席：甲斐野仁美さん、廣實咲紀さん



武蔵野賞受賞者の実態～生活編～

——皆さん、アルバイトはしていますか？

中山 ホテルで週3日やっています。結婚式の補助もするので、やるとしたら一日8～10時間くらいです。

石田 勉強に影響のない範囲で、短期で時給の良いものがあればやっています。

竹口 週2回、一日6時間程度やっています。

根本 平日は研究室活動に専念して、土日に飲食店で丸一日やっています！

——結構皆さんアルバイトしているんですね。部活動やサークル活動はどうでしょう？

徳長 カントリーと野生生物研究会、猛禽ボランティアに入っています！外部の楽団に所属して合唱や吹奏楽をしています。なんでもやれるうちにやっておこうと思っています！

駒村 私は生協学生委員とWISH（犬猫ボランティア）に入っています。

永尾 卓球のサークルに所属しています。活動は週1回あるかないくらいで、活動しても3時間くらいですね。

青木 バスケットボール同好会に所属して活動しています。



武蔵野賞受賞者の実態～勉強編～

——正直、勉強が全然進まない、苦手な科目はどうやって勉強していますか？

根本 歌に乗せて覚えていきます！通学中や家でも歌っていますね（笑）おかげで母親も一緒に覚えてしまいました（笑）

岩本 私も語呂合わせで覚えています。その方が覚えやすいです。

鈴木 私は時間をかけて自分なりに図を描いて流れを理解するようにしています！

——なるほど。皆さん語呂合わせや図に描いて覚えているんですね。ひたすら書いて覚える派の人はいますか？

竹口 唱えながらひたすら書いて覚えています！

——試験対策は皆さんどうしていますか？

河西 某先生の科目は落とすと大変だと聞いたので、頑張りました（笑）対策としては、講義はスマートフォンで録音しています。結構周りも録音していますよ。



——すごい！その録音したものはどうしているんですか？

河西 パソコンに保存しておいて、まとめノートを作るときに分からなかったところを録音で確かめています。

——その他何かやっている人はいますか？

後藤 やらなきゃいけないことを書き出して、計画的に勉強するように心がけています。

根本 私も計画立てることは好きなのですが、いつも計画倒れてしまいます…（笑）

石田 先生によってはテストのポイントを授業中に言ってくれるので、聞き逃さないようにしています。それだけでも全然違いますよ！



勉学に励む学生へメッセージ

——最後に、皆さんと同じ勉学に励む学生へメッセージをお願いします！

漆山 余裕を持ったスケジュールを組むことが大切だと思います。長くゆるくやる方が、精神的に楽ですよ！

後藤 私は、ちゃんと勉強するようになったのは研究室の同期に影響されたからなんです。試験勉強も友人に助けられました。周りの人との関わりを大切にすることも、とても重要です！

永尾 大学の学習内容は高校の時と比べて専門的で、覚える内容も多いです。試験前だけでなく、日常的に復習を行うことが大切です！

鈴木 この大学は学びたいことが似ている人が集まっているので、自分ひとりで頑張るだけでなく、周りの人と助け合いながら勉強することで学びが深まると思いますよ！

増田 規則正しい生活をして、有効的な時間の使い方ができるようになった方が良いと思います。単位を取るだけの最低ラインを決めてしまわないで、努力することが重要です。

青木 「当たり前」のことを丁寧にこなすことが大切だと思います。勉強は成長につながる大切な機会。この先嫌なことがあっても、平然と取り組み、解決できる。勉強はそんな能力を養うための訓練だと認識し、取り組んでいます。何事にも臆することなく、全力で挑戦し、実りの多い大学生活にしましょう！

駒村 1年次はとにかく課題を溜めない！（笑）コツコツ勉強したほうが絶対良いです。

岩本 何事も早めに準備することをおすすめします。やればやるだけ成果に繋がりますよ！



▲武蔵野賞受賞者全員で記念撮影！



▲平成31年度入学式にて、武蔵野賞授賞式が行われました

武蔵野賞受賞者の実態～番外編とまとめ～

《勉強場所》

- ・自宅派が多い。
- ・高学年になると大学内での勉強率が高くなる。
- ・カフェ派はなんと0人！しゃべってしまうらしい。

《勉強のお供》

- ・お菓子もカップラーメンも食べない！
- ・音楽を聴きながら派は意外と少数。

《まとめ》

- ・勉強だけ！といわけではなく、バイトも部活動・サークル活動も研究室活動もすべて両立している。
- ・目の前の試験のための勉強ではなく、先を見据えた勉強をしている！素晴らしい！



梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な研究業績を挙げ本学の榮譽に貢献した教員を表彰します。賞状及び副賞が授与されます。

梅野信吉：1863(文久2)年～1930(昭和5)年
狂犬病予防ワクチンや牛駅予防ワクチンを開発した。
本学の前進である私立獣医学校1回生で、日本獣医学校第4代校長。



2018年度 親子関係に着目した野生動物の成長、分散および成熟に関する研究



山本 俊昭
(Toshiaki YAMAMOTO)
獣医学部 獣医保健看護学科
獣医保健看護学応用部門
准教授

◆研究キーワード
血縁関係、生活史分岐、ツキノワグマ、サクラマス、Y染色体特異的マーカー、性決定、間接効果、保全生物、生息環境、河川生態系復元、性判別、外来種
◆研究分野
●資源保全学 / 資源保全学
●生物資源保全学 / 生物資源保全学

研究者情報は
こちら→



「親子関係に着目した野生動物の成長、分散および成熟に関する研究」

分子生物学的手法を用いて親子関係を明らかにし、様々な成長過程において親の性質が子に対してどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする研究。
ツキノワグマの研究では膨大な個体数に及ぶ血縁関係の解析と詳細な行動データを融合させて、新たな繁殖生態を明らかにし、魚類では人工交配による実験から、親の性質による影響を野外で正確に示した研究を行っています。

(コメント)

このたびは、栄える梅野信吉賞を受賞することができ、大変光栄です。日本獣医生命科学に着任して14年の月日が経ちますが、研究室の学生をはじめ多くの方々と協力しながら行ってきた野生動物(ツキノワグマ・サクラマス)の生態学的な研究成果が評価されたこと、大変うれしく思っております。
今年は6月からスコットランドのグラスゴー大学に短期留学をする機会もいただきました。この機会を更なる研究のステップアップとなるよう邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。
末筆ではございますが、多くの方々の協力なくして研究を遂行することはできませんでした。重ねてお礼、感謝申し上げます。
有難うございました。

《過去の梅野信吉賞一覧》

2017年度

- ①犬の肝疾患に対する脂肪由来間葉系幹細胞を用いた幹細胞療法に関する研究
●手嶋隆洋 講師(臨床獣医学部門治療学分野Ⅰ)
- ②犬と猫の皮膚バリア機能研究と動物看護への応用
●百田 豊 准教授(獣医保健看護学臨床部門)

2016年度

- ①犬と猫の悪性腫瘍における臨床応用を目的とした集学的研究
●藤原重紀 講師(臨床獣医学部門治療学分野Ⅰ)
- ②明周期が猫の皮下脂肪の遺伝子発現に与える影響の検討～RNAシークエンス法を用いて～
●森 昭博 講師(獣医保健看護学臨床部門)

2015年度

- イヌおよびネコ乳腺腫瘍の癌微小環境に関する病理学的研究
●吉村久志 助教(獣医保健看護学応用部門)

2014年度

- 放射線治療抵抗性がんに対するRAD51を標的とした新規治療法の開発
●落合和彦 講師(獣医保健看護学基礎部門)

2013年度

- 犬および猫のがん幹細胞標的療法に関する基礎的研究
●道下正貴 講師(獣医病理学教室)

2012年度

- マイクロバブル化した加圧二酸化炭素を用いた食品の殺菌・酵素失活に関する研究
●小林史幸 助教(食品工学教室)

2011年度

- てんかんとMRIを主軸とした脳疾患の基礎的・臨床的研究
●長谷川大輔 講師(獣医放射線学教室)

2010年度

- 国産山羊産品の需要検証と市場開発及び生産システムの構築に関する研究
●小澤壯行 准教授(システム経営学教室)

2009年度

- 肥満細胞腫における腫瘍化分子機構の解明と分子標的治療による腫瘍の排除
●盆子原誠 講師(獣医臨床病理学教室)

2008年度

- グレリン受容体ファミリーの消化管機能制御機構
●山本一郎 助教(獣医生理化学教室)

2007年度

- 日獣大オリジナルの自然発症性突然変異ラットを用いた病態モデルの開発と遺伝子機能の解析
●鈴木浩悦 准教授(獣医生理化学教室)

※職位及び研究室名は受賞当時のもの

紫雲賞

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員および団体を表彰します。賞状及び副賞が授与されます。

紫雲：吉兆とされる紫色の雲。念仏行者が臨終のとき、仏が乗って来迎すると言われる。
※紫は明治時代、獣医官の襟章が紫(紫紺)であり、本学には由来の深い色。

2018年度 ベストティーチャー賞 (授業評価アンケート結果に基づくFD委員会の推薦)



江草 愛 (Ai EGUSA)
応用生命科学部 食品科学科 講師

- ◆初めて担当した講義 2016年「栄養化学」
- ◆講義テクニックの修得 特に思い当たる節はありませんが、「話には必ずオチと笑いを取るように」と出身地(関西)で教えられました。

——「栄養化学」の授業評価により受賞したとお聞きしましたが、工夫していた点、こういう部分が評価されたのではないかと、思うことを教えてください。
初回の授業で学生の皆さんと2つだけ約束をしています。1つは「お喋りをしないこと」、もう1つは「退室の際には行き先を告げること」。これ以外は内職をしても良いし、隣のひとと筆談をしても構わないと伝えています。面白い(興味深い)講義をすれば、学生は居眠りや内職が出来ないくらい授業に集中してくれると考えているからです。
私が担当した科目は「栄養化学」であり、生きていく上で必要不可欠な事象を取り扱っていた点も、学生にとっては飽きずに受講してくれた要因だと思っています。

(コメント)

授賞に際し、学生の皆さんと授業を支えてくださった職員の皆様、そして評価に関わって頂きました諸先生方に、心より感謝申し上げます。
授賞対象となりました「栄養化学」では、到達目標に「講義内容を自身の食生活に活かす」ことを掲げております。「栄養」は生命を維持するという大きな役割を担っているものの、普段の生活では等閑にされがちです。摂取した食物からエネルギーを取りだし、排泄するまでの一連の流れを意識し、生活習慣をより良い形に改善することで、自身やご家族の健康に貢献できるようにと願って、毎回の授業を行ってまいりました。
そうは言うものの、実際には、授業中に思わぬハプニングも沢山あり、その度に臨機応変に対応してくれた学生の皆さんがいたからこそ、何とか成り立っていたかと存じます。
教授法もまだ至らぬ点が多く、改善の余地がございます。皆様には、引き続きご指導頂きますよう、切にお願い申し上げます。

2018年度 アクティブティーチャー賞 (学修支援システム活用推進に基づくFD委員会の推薦)



青木 博史 (Hiroshi AOKI)
獣医学部 獣医保健看護学科 准教授

- ◆学修支援システムへの第一印象
歓迎しました!なお、自分の学生時代の学習環境を思い出し、「時代の変化」をしみじみ感じました。
- ◆学修支援システムのお気に入りポイント
ペーパーレス化が可能、出席管理が容易い、学習チャートにより学習状況と講義資料等利用率を知る(評価する)ことができる!

——「動物防疫学」では「復習：確認アンケート」が毎回実施されていますが、テキスト教材ではないんですね。
テストは期末テストに限っています。一方、制限時間や合格得点率などに制限されず、あくまで自習材料、復習や時間のある時に活用するコンテンツを提供しようと考えたとき、アンケート教材が使用しやすいと考えました。
——出席もシステムで管理されていますね。
講義のはじめにパスワード公表、制限時間内に出席登録(その間約5分で新聞等で報道されたニュース紹介)。出席状況をすぐに把握・集計でき、出席に関する注意喚起もしやすい(試験受験資格の2/3以上の出席など)ですよ。

(コメント)

学修支援システムなるものが導入されたので、「イジッてみよう」、「取り入れてみよう」とのりで始めました。気楽に続けましたが、確認アンケートは動物看護師統一認定試験の必須科目においてポイントになる用語や理論を講義以外でも触れる機会を増やしたいの思いとマッチしたものです。次年度も改良しようと思案していたところなので、今般の受賞は思いもよませんでした。活用してくれた学生に感謝です。
型にはまった使い方ではなく、コンテンツを提供する方も学が方も各々にあった使い方に発展させていけるのではないかと思いますし、それがこのシステムの良いところであると感じます。双方の理解と協力が必要になると思いますが、いろいろと試すことで、新しい利用法・学習体系が生まれると期待しています。
学生は、是非とも、自分の学生生活にマッチした学修支援システムを用いる学習スタイルを見つけてほしいです。習慣化できればなお良いと思います。

《過去の紫雲賞一覧》

2017年度

- ①ベストティーチャー賞「臨床動物行動学演習」
●水越美奈 准教授
- ②アクティブティーチャー賞「食べ物の安全性」
●吉田 充 教授

2016年度

- ①ベストティーチャー賞「基礎生物学Ⅰ・Ⅱ」(命名法・自然科学概論)
●竹村直之 教授 ●畠山 仁 助教
- ②アクティブティーチャー賞「化学Ⅰ」
※獣医保健看護学科
●片山欣也 准教授
- ③獣医保健看護学科 学年担任
●左向敏紀 教授 ●落合和彦 准教授

2015年度

- 長年にわたる体育祭の支援並びに本学のスポーツの振興と学生の福祉向上への寄与
●運動科学教室 濱部浩一 教授

2014年度

- ①獣医学教育システムの充実に関する取り組みの獣医学教育への多大な貢献
●獣医学教育推進室
- ②授業アンケート評価結果
●小澤壯行 教授

2013年度

- 実験動物技術者1級試験の合格者輩出への貢献
●実験動物学教室 天尾弘実 教授

2012年度

- バイオ技術者教育の推進
●(任意組織) バイオ技術者認定試験支援委員会
近江俊徳 教授 田中実 教授
落合和彦 講師 中尾暢宏 講師

2011年度

- ミートジャッジング指導及び全学公開の公務員セミナーによる本学学生の学習意欲の高揚に貢献
●動物栄養学教室 撫 年浩 准教授

2010年度

- クlickカーシステムを活用した双方向・学生参加型講義の構築と実践
●田島 剛 助教

2009年度

- 本学学生の教育並びにその推進に優れた貢献
●原 康 教授 ●畠山 仁 助教

2008年度

該当なし

2007年度

該当なし

※職位及び研究室名は受賞当時のもの

紫雲賞 後日譚



昨年度紫雲賞(アクティブティーチャー賞)を受賞された食品科学科の吉田充教授が、2月14日(木)に開催されたFD講演会で「紫雲賞受賞に基づく学修支援システムの活用方法の紹介」として講演しました。吉田先生は、学修支援システムのアンケート機能を活用したアクティブラーニングを取り入れた授業を行っており、講演では教員へアンケート機能の設定の仕方を詳しく説明した他、効果についても述べられました。
学生はスマートフォンを駆使し、反応良く実施したとのことでした。学修支援システムのアンケート機能は学生に興味を持たせ関心を引くのに良いとのことでした。これからの素敵な講義をどうぞよろしくお願いいたします。

社会を支える重要な仕事。それが検疫。

農林水産省 動物検疫所 畜産系技術職員 森笹 柚香

——森笹さんは農林水産省 動物検疫所で畜産系技術職員の内定(取材時)をいただいているのですが、入学当初から公務員を目指していたのですか？

いえ、入学当初は動物看護師を目指していたと思っていました。

——そうだったんですね。それでは、技術職員を目指したきっかけはなんだったのでしょうか？

今まで公衆衛生とは何か、全く知りませんでした。ですがこれまでの講義や実習を通して、人の健康の保持増進を目的としていることを学び、検疫の仕事の大切さを実感しました。検疫の仕事がないと社会は回りません。そういう見えないところを支えている人々と仕事内容に魅力を感じました。また、自分はコツコツ地道にやっていく仕事の方が向いているとも思っていました。そして3年次の夏に動物検疫所のインターンシップに参加したことで、「ここで働きたい!」という思いが確実なものとなったと思います。

——どこでインターンシップがあるのを知りましたか？

研究室の先輩が「こういうのがあるよ」と教えてくれました。それがなかったら公務員になることも諦めていたかもしれません(笑) 私は川崎にある動物検疫所に行きました。

——動物検疫所のホームページを見ると、各所でインターンシップが行われていますね。インターンシップではどんなことをしましたか？

畜産物の輸入検査の現場での業務を経験させていただきました。場所によっても内容が結構違うみたいです。人数も各所2人と少人数でした。

——動物検疫所 畜産系技術職員の試験では専門科目もありますが、具体的にいつ頃から勉強を始めましたか？

畜産系の科目だったので、獣医保健看護学科の講義では学んでいないことも多かったです。3年次の10月末から勉強を始めたけれど全然頭に入らなくて…どう勉強したらよいのか分からなかったんです。そんな時、同じ研究室卒で昨年度動物検疫所に就職した先輩から、要点をまとめたプリントをいただきました。それ以降はそれだけをひたすらやっていました(笑)

——二次試験は面接でしたが、面接対策は行っていましたか？

対策という対策はしていなかったですね…。インターンシップと一緒に参加した獣医職志望の方



森笹 柚香
(Yuzuka MORISASA)
獣医学部獣医保健看護学科
4年次 ※取材時
獣医保健看護学応用部門所属

とはやりとりを続けていました。獣医職の方が面接の日程が先だったので、アドバイスをいただいて、ある程度自分の中で固めて面接に挑みました。

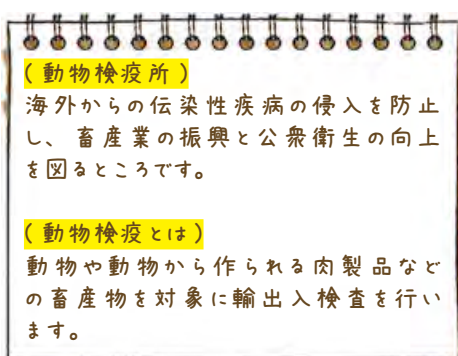
——周りの方の支えもあって、試験を乗り越え、見事に夢を叶えられたのですね。最後に、同じ検疫官を目指す学生の皆さんにひとことお願いします！

大学の講義や実習と、公務員試験の勉強の両立は大変だと思いますが、動物検疫所で働きたいという強い思いがあれば、乗り越えられると思います。頑張ってください！

——相手を支えたいという気持ちが強い森笹さんだからこそ、周りの方々の心強いサポートがあったのだと思います。立派な検疫官になってください！



▲周りの人への感謝の気持ちが溢れていました



THE ROAD TO SPECIALIST

スペシャリストへの道

～学生編～

本学の教育理念は

「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。

獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職(スペシャリスト)

の道を歩むことを目指す学生の活動と既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。



チーズの知識は誰にも負けない自信があります。

六甲バター株式会社 技術・開発職 小澤 仁

——小澤さんは開発職で内定(取材時)をいただいています。はじめに、なぜ「食」に携わろうと思ったのでしょうか？

祖父が小児科で、食事療法などを教えていました。薬を使わないで治療できる方法などの話を小さな頃から聞いていて、「食」に自然と興味を持つようになりました。また、食べることが本当に好きで、将来は「食」に関する仕事をしたいと思い、本学食品科学科に入学しました。

——小さい頃からの夢が叶ったということですね！その中で、なぜ開発職に魅力を感じたのですか？

もともと食品関係の仕事の中でも、新商品の開発をやりたい気持ちがありました。所属している乳肉利用学教室では新規チーズの研究をしており、チーズにも魅力を感じるようになりました。開発は消費者のニーズを踏まえて商品をつくる上で創造力が試されますが、自分が開発した商品が消費者の手に取ってもらえる瞬間は、おそらくこれまでの苦労も大きな喜びと感じられると思います。また、自分が開発した商品を家族や友達が食べて幸せな気持ちになってもらいたい——そういった思いややりがいを感じたいと思ったからです。

——就職活動では全部で何社くらい受けましたか？

多くの企業は総合職採用が多く、最初か

ら開発に携われるところはあまりなかったんです。インターンシップにも参加したんですが疲れてしまって(笑)なので全部で15社くらいしか受けていないです。

——でもその中できちんと納得のいく結果を出せたことはすごいです！開発職というと院生のイメージが強いですが、実際のところはどうか？

同期は10人いて、うち開発職は自分を含めて3人です。他の2人はそれぞれ院生と学部生ですね。

——同期は大切な仲間であり、時にはライバルになることもあるかと思います。ご自身で強みだと思うことがあったら教えてください。

開発職の同期2人にはチーズの知識は負けない自信があります！大学や研究室で培った経験を活かしたいです！！

——チーズの知識！例えば研究室活動以外に、何かご自身で勉強などされていましたか？

就職先が決まってからは、チーズの知見を増やしたいと思い、勉強しました。研究室の先生方に教えていただいたり、自分で調べたりして、「ALL JAPANナチュラルチーズコンテスト」や「日本チーズ百選」といったイベントにスタッフとして参加した

りもしました。あとは研究室の皆で各国のチーズを買ってきて、食べ比べなどもよくしていました(笑)

——楽しい研究室生活だったようで何よりです！そしてさらに、学ばれていたことがご自身の夢に繋がったのは他の学生さんの励みになりますね。最後に在学生の皆さんへ、アドバイスをいただければ幸いです！

実際に就活をしてみて、開発職を志望する人はやはり院生が多く、負けそうな気持ちになりました。でも自分がその会社で何をしたいのか、なぜその会社で働きたいのか、強い想いをきちんと言うことが出来れば相手に伝わると思います。頑張ってください！！

——小澤さんが開発した商品が食べられる日を心待ちにしています！



▲皆さんに笑顔や幸せを届けられる商品を作るスペシャリストになってください！応援しています。



研究の楽しさ。 それは、 仮説が証明されたとき。

——お忙しい中ありがとうございます。柳橋さんはなぜ研究職に就こうと思ったのですか？

学部3年次から食品衛生学教室に所属し、腸内細菌についての研究をテーマにしました。ヨーグルトが腸内細菌の構成バランスを劇的に変化させ、それに伴い、おなかの調子も良くなるということを身をもって体験し、腸内細菌の面白さに魅せられました。その後、腸内細菌が宿主の免疫系によりどのように制御されているのか解析するため、免疫学の道を志しました。研究者を目指す過程で一番大変だったのは、研究を仕事にすると決断したことですね。

——さきほど「研究を仕事にすると決断したことが一番大変」とおっしゃっていましたが、なぜですか？

研究を仕事にしたいという想いは持っていましたが、競争の激しい世界で自分がやっていけるのかとても不安でした。また、博士課程卒業後は民間企業の就職先は限定され、かつ採用人数も少ないと思っていたので、博士課程への進学にも大変悩みました。実際に修士課程の間に就職活動もしましたが、最終的には研究を続けたい思いが強く、博士課程に進学する道を選びました。

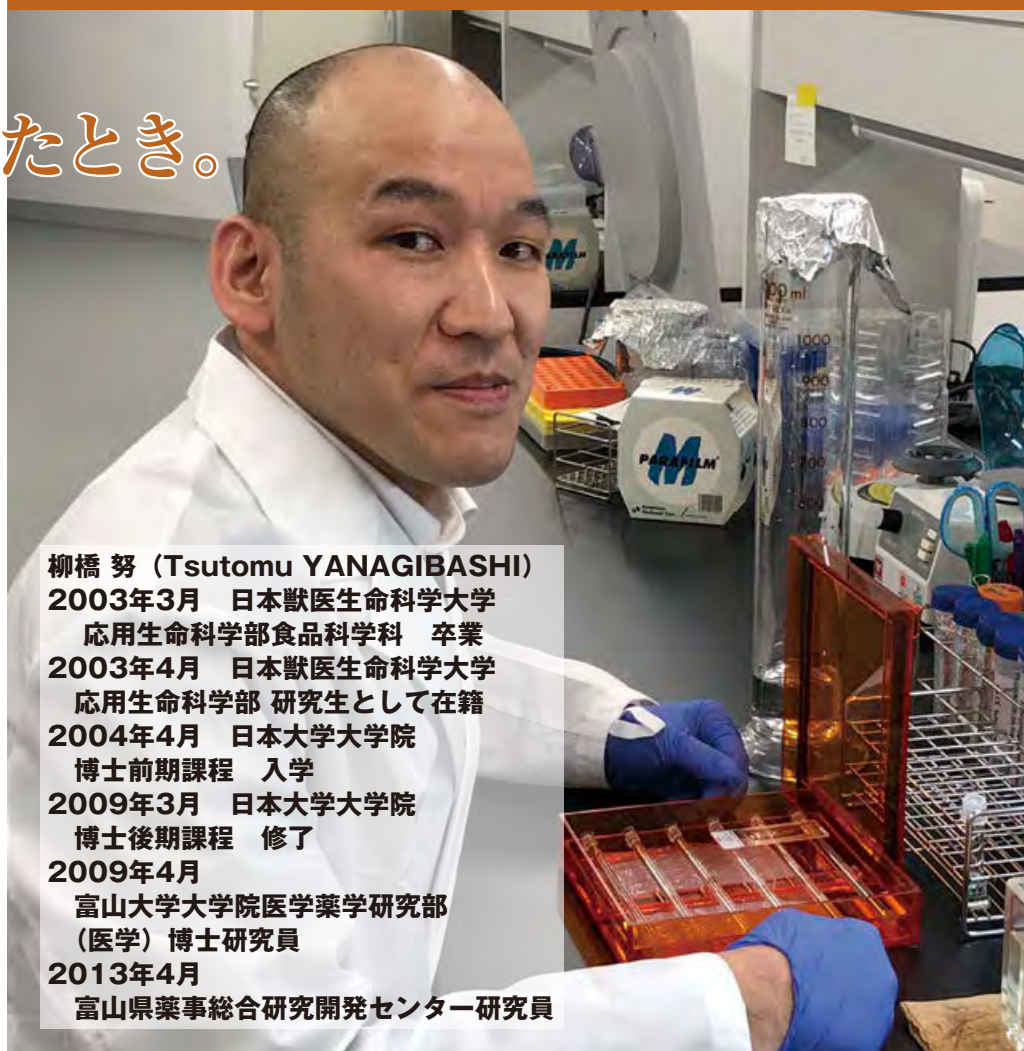
——富山大学に研究員として、そして現在も富山県にいらっしゃいますね。

大学院では腸内細菌と宿主の免疫系との相互作用について解析していましたが、卒業後は宿主の免疫についてさらに学びたいと考えていました。私の興味のあるテーマを研究されていた富山大学の免疫バイオ・創薬探索研究講座に応募し、博士研究員として採用して頂きました。次のステップを考えていた際に、現在の所属で経鼻投与型ワクチンのプロジェクトに参加する研究員を募集しており、これまでの経験が活かせる仕事だと思い、応募しました。

——現在の仕事内容や面白さ、魅力を教えてください。

経鼻投与型インフルエンザワクチン開発の中で、従来型ワクチンよりも優れている点を科学的に検証しています。新薬の開発に関わらず、自分達の仮説を一つ一つ検証し証明することは研究の何よりの楽しさです！

富山県薬事総合研究開発センター 研究員 柳橋 努



柳橋 努 (Tsutomu YANAGIBASHI)
2003年3月 日本獣医生命科学大学
応用生命科学部食品科学科 卒業
2003年4月 日本獣医生命科学大学
応用生命科学部 研究生として在籍
2004年4月 日本大学大学院
博士前期課程 入学
2009年3月 日本大学大学院
博士後期課程 修了
2009年4月
富山大学大学院医学薬学研究部
(医学) 博士研究員
2013年4月
富山県薬事総合研究開発センター研究員

——大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

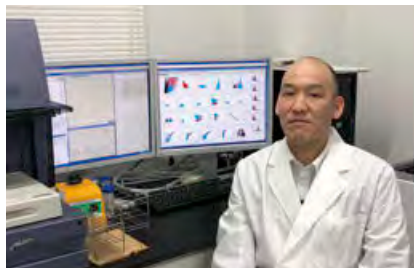
県内の製薬メーカーから、細胞から化学物質が放出されている顕微鏡映像が撮りたいといったご相談を受けた時には、様々な実験条件を試すため、朝から夕方まで細胞を凝視することを何日も繰り返しました。ようやく撮影できたときは、メーカーの方にも大変喜んで頂くことができ、次も頑張ろうと思いましたね。

——在学生にひとことお願いします！

就職や進学等、異分野に進む際には悩めることを多いと思いますが、あまり先のことばかり悩み過ぎず、自分がやりたいことを選択してください。自分が興味を持てたことを大切に、ぜひチャレンジして頂きたいと思います。

——ありがとうございました！

ある1日のタイムスケジュール
8:30 出勤
9:00 ミーティング
10:00 実験(インフルエンザワクチン)
12:00 昼食
13:00 実験(腸内細菌等)
18:00 デスクワーク
19:00 帰宅



▲本学大橋教授(食品科学科)とも共同研究を行っているそうです！

——本日はお忙しい中ありがとうございます。三木さんは獣医保健看護学科2期生です。動物看護師という仕事を選んだ理由を教えてください。

小学1年生から小鳥を飼いはじめ、獣医療という世界を知りました。言葉で伝えられない動物達の状態を、表情や仕草というメッセージで受け止め、治療につなぐ動物看護という仕事に魅力を感じました。

——三木さんは卒業後、こちらの医療センターにお勤めされてから転職し、またお戻りになられています。最初から二次診療を希望していたのですか？

学生時代から二次診療に行きたいと固まっていた。研究室(臨床部門代謝・栄養学研究分野)で管理の勉強をしており、管理の必要性を感じていました。家族と離れて徹底的な治療を必要としている動物たちが少しでも穏やかな時間を過ごせるように、小さな変化を見つけて治療に反映させる。そういった看護をより必要としているのが二次診療であり、自分が一番携わりたい場所でした。

——なるほど。卒業後3年で一次診療に転職されたきっかけはなんですか？

いきなり二次診療の世界に来てしまったので、一次診療の現場も経験して、どちらが自分に合っているのか確かめたいとも思いました。ワークライフバランスを考えた上で、転職しました。

——一次診療も経験された上で、またこちらの医療センターに戻られたのですか。

一次診療と二次診療では全く違い、一次診療では何をすべきなのか、最初は全く分からなかったです。それと、一次診療は受付から診療

補助、処置、会計まですべて一人でこなさなければなりません。ここ(医療センター)は各科に専属スタッフがいて、それぞれの業務に打ち込みます。両方経験した上で、私には二次診療が合っていると思い、戻ってきました。

——三木さんは現在お勤めされながら、3歳のお子さんを育てていらっしゃいます。子育てと仕事の両立は大変ではないですか？

やはり大変です(笑)でも、それに対して理解のある職場であることが一番大切だと思います。獣医療の現場は、労働条件が整っているところが多くはないのが現状です。一般企業とはそこが大きく違うので、女性は特に結婚、出産、育児という人生の大きな節目で壁にぶつかることが多いと思います。ですが自分のライフスタイルに合った環境を探せば、仕事も子育ても十分両立できますよ。今はすごく働きやすいです！

——結婚後も働きやすい環境かどうか、女性にとってはとても重要ですよ。家事などは分担されているのですか？

主人も同業ですので、動物看護師という仕事に対して理解があり、大変助かっています。ですので家事も分担して、お互い補いあいがらやっていますね。

——ありがとうございます。こちらの医療センターについて質問です。スタッフがすごく多い印象を受けますが、全部で何名いるのでしょうか？

動物看護師だけで40名近くいます。獣医師はそれよりも多く、みな各科に専属しています。そして受付や検査等、すべての部署を合わせると150名近くのスタッフが働いています。

——それだけのスタッフがいないと回らないくらい患者数ということですね。動物看護師で男性の方はいらっしゃるのでしょうか？

現在6名の男性スタッフが働いています。体の大きな動物や力の強い動物もいるので、男性看護師がいると助かります！たくましい男性大歓迎です!!(笑)

——ありがとうございます(笑)子育てをされながら命の現場の最前線で働かれているお姿に、女性の強さを感じました。これからの益々のご活躍をお祈りしています！



▲入院患者の管理が主な仕事

ある1日のタイムスケジュール
8:30 出勤
9:00 入院患者の朝処置
(体調の確認、各種検査)
9:30 投薬および給餌
11:00 午前処置内容最終チェック
13:00 昼休み
14:00 面会案内、昼処置・投薬・給餌等
15:30 午後処置(TPRおよびBody Check)
16:30 引継ぎ、退勤
※子育て中のため時短勤務

動物たちの気持ちを治療につなぎ、 命をつなぐ最前線に立ち続けたい。

公益財団法人日本小動物医療センター 動物看護師 三木 巴



◆科研費(科学研究費助成事業)採択件数

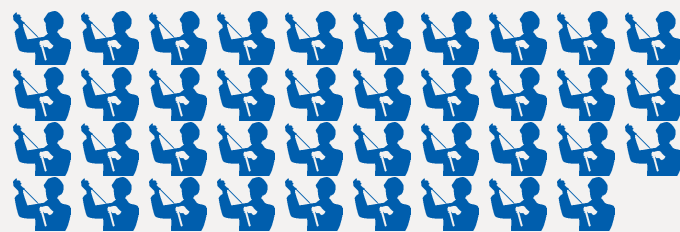
科研費助成事業とは？

人文・社会科学から自然科学まで全ての分野の研究をに発展させることを目的とした、文部科学省と日本学術振興会が中心に行っている科学研究費助成事業。審査・選考を経て助成が行われます。

本学教員の約1/4が採択されています。年間補助金額は6年間の平均で年間約7,414万円となっています。

(年間) **39.0件**

※2013~2018年の過去6年間の平均採択件数



2018年7月30日付の採択課題は35件でした。



その他採択課題一覧はこちら

PICK UP

- [基盤研究A]小動物臨床におけるてんかん外科の導入
●長谷川大輔(獣医放射線学研究室)
[基盤研究B]食感日本語表現の多言語辞書作りー食感表現学習教材セットの創作も目指してー
●小竹佐知子(食品工学教室)

◆共同研究件数

(年間) **30.2件**

※2013~2018年の過去6年間の平均採択件数



共同研究とは？

民間企業・地方自治体・独立行政法人等の外部機関の研究者と対等の立場で、共通の課題について共同で研究を実施することにより、本学の研究力と外部の技術力を集結し成果を上げる制度です。

本学の共同研究費は2013~2018年の過去6年間に於ける平均で年間約1,753万円となっています。

PICK UP

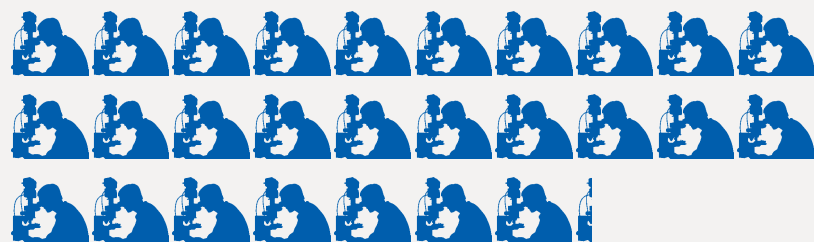
「鶏卵の付加価値を高める研究」 ●太田能之(動物生産化学教室)
委託先：株式会社アキタ

産卵鶏に特殊成分・原料を添加給与し、卵白及び卵黄への影響やハウユニット維持向上や調理・加工適性との関連を調べ、卵質の品質向上と調理・加工適性の向上に貢献する。

◆受託研究件数

(年間) **27.2件**

※2013~2018年の過去6年間の平均採択件数



受託・共同研究の実施状況はこちら

PICK UP

「災害時における動物管理に関わる支援システムの実装」 ●羽山伸一(獣医学科 野生動物学研究室)
委託先：独立行政法人科学技術振興機構(JST)

日本獣医師会、環境省、日本動物福祉協会の協力のもと、動物医療関係者(獣医師、動物看護師、動物関連企業職員、行政獣医師、動物愛護推進員、動物関係NPO職員など)を対象に災害時動物医療派遣人材を育成するための研修を全国で展開する一大プロジェクト。各地域での災害時における動物管理の検証を行いながら、災害時動物医療派遣人材の認定登録をしています。

受託研究とは？

国・地方公共団体・独立行政法人・民間企業等の外部からの委託を受け、委託者の負担する経費を使用し委託課題を研究し、成果を委託者に報告する制度です。

本学の受託研究費は2013~2018年の過去6年間に於ける平均で年間4,085万円となっています。

Extra Edition

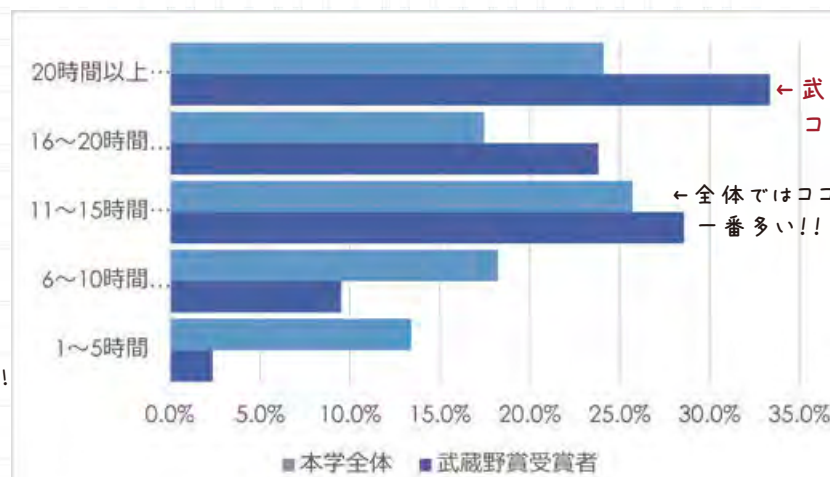
(本日のテーマ)

2018年武蔵野賞受賞者42名の学生アンケート結果と全体結果をくらべてみよう！

【No.45】授業や実習に出る時間(週当たり) ※1つ選択

	1	2	3	4	5
	1~5時間	6~10時間 (講義4~7科目まで)	11~15時間 (講義8~10科目)	16~20時間 (講義4~7科目+集中実習)	20時間以上 (講義8~10科目+集中実習)
武蔵野賞受賞者	2.4%	9.5%	28.6%	23.8%	33.3%
本学全体	13.4%	18.2%	25.7%	17.5%	24.1%

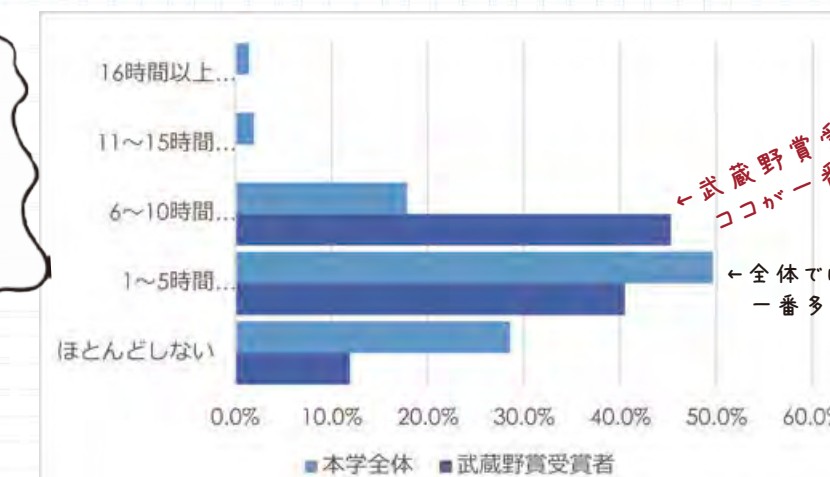
武蔵野賞受賞者は、比較的たくさんの授業を履修しているのかしら...それなのにポイントをとっている！



【No.46】授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする時間(週当たり) ※1つ選択

	1	2	3	4	5
	ほとんどしない	1~5時間 (1日1時間未満)	6~10時間 (1日1~2時間)	11~15時間 (1日2~3時間)	16時間以上 (1日3時間以上)
武蔵野賞受賞者	11.9%	40.5%	45.2%	0.0%	0.0%
本学全体	28.5%	49.6%	17.8%	1.9%	1.4%

武蔵野賞受賞者は、週当たり6~10時間(1日1時間~2時間)の授業外学修が、ボリュームゾーン。



武蔵野賞受賞者ではココが一番多い!!

全体ではココが一番多い!!

武蔵野賞受賞者は、授業外学修に時間をかけているのか~



★ memo ★

(1) ニチジュウでは、後期カリキュラムガイダンスで学生にアンケートを実施している。

(2) 質問カテゴリは6つ！

- ・満足度
- ・授業学修について
- ・学生生活や活動時間について
- ・入学後の能力変化について
- ・大学で経験したいことについて
- ・将来や進路について

平成30年度 学生アンケート (平成30年9月20日実施)

日本獣医生命科学大学

大学生を取り巻く社会状況や教育環境が変化するなかで、本学学生の学習・生活全般にわたる行動や意識、実態を把握し、カリキュラム改革や学生支援の充実へつなげるためのアンケートです。ご協力をお願いいたします。

- 対象：全学部学生
- 質問項目数：80問
- 回答方式：マークシート方式

【注意事項】
・回答は別紙マークシート「答案用紙」に記入してください。
・学籍番号は **左づめ** で記入し、その下にマークしてください。
・カリキュラムガイダンス内に回答してください。
・回収します。

(回答用のマークシート) **答案用紙**

学籍番号 **左づめ**

※氏名を記入する

※注意事項
1. 記入は、必ず11月の最終締め切りまで。
2. 訂正は、消しゴムで消してから行うこと。
3. 用紙を汚したり、折り曲げたりしないこと。



2019年度 学長所信表明 紫雲賞授与・梅野信吉賞授与並びに採用教職員紹介

4月11日、E棟111講義室で阿久澤学長より2019年度始業にあたり、ニチジュウミライ図「中長期計画」や昨年度事業の報告及び2019年度事業計画について以下のとおり所信表明がありました。

【2019年度 日本獣医生命科学大学事業計画】

基本方針：つなぐ「誇り」と「力の結集」による着実なる実績の積み上げ

重点事項：1. 第1校地・第2校地再開発プランの策定と実行

2. 特色ある研究プロジェクトの推進と情報発信

3. 地域と産業界との連携強化

4. 学生満足度の高い教育と学生支援の実行

5. 高大接続改革の継続的推進と志願者増加策の実行

本年度も本学は計画を改革の力とし、健全な発展へと進めていきます。

また、全教職員が集まるこの機会に紫雲賞授与・梅野信吉賞授与並びに採用教職員の紹介が行われました。

関連記事
紫雲賞・梅野信吉賞の授賞式、採用教職員紹介の様子など
詳細はこちら



ニチジュウの学びの集大成！卒業論文発表会

2018年2月、各学科では卒業論文発表会シーズンでした。

獣医保健看護学科では、基礎部門、臨床部門、応用部門それぞれに分かれての発表となりました。基礎部門、臨床部門は学会形式の発表で、来年度発表する3年次学生も真剣なまなざしで先輩の発表に聞き入っていました。応用部門はポスター形式での発表でした。会場は多くの人で賑わっており、発表者である4年次学生は質問に丁寧に受け答えしていました。

動物科学科は毎年全研究室一斉に発表を行っており、今年は2月8日（金）に開催されました。会場は4会場あり、とても多くの学生が発表者の発表を見守って



関連記事
獣医保健看護学科卒業論文発表会レポート
N-Report（学生レポート）



動物科学科卒業論文発表会レポート
A-Report（学生レポート）



食品科学科卒業論文発表会レポート
F-Report（学生レポート）



【食品科学科インターンシッププログラム】 ニチジュウ×チクレン 学生と発酵バター入りコンビーフ缶を開発

産学連携の取り組みで、食品科学科3年次のインターンシッププログラムとして、チクレングループのブランド赤身牛肉である「キタウシリ」（乳用種去勢牛の食肉）を使用した商品の開発を行いました。

インターンシップ第2期（2018年12月～2019年3月）において、「キタウシリ」を使用したニチジュウ×チクレングループの新しい商品の開発をテーマとし、学生と三浦孝之准教授（食品科学科乳肉利用学教室）が、試行錯誤の結果、「日本獣医生命科学大学は私立大学の中で最も古くから乳製品の研究を行っている乳製品のプロフェッショナル」であることから、発酵バター入りのコンビーフを商品とすることに決定しました。チクレングループと商品の製造について協議した末、「発酵バター入りコンビーフ缶」の概要（レシピ）が決定し、3月15日（金）に完成しました。4月以降に行われるオープンキャンパス等のイベントで利用する予定です。

関連記事
チクレングループとの産学連携最新情報はこちら！
【取材日誌】ニチジュウ×北海道チクレングループインターンシッププログラム（第2期）活動報告



いました。すべての発表が終了すると最後に学科長、学年担任から総評があり、学生たちは無事に発表が終わってホッとした様子でしたが、どこか寂しそうな表情を浮かべていました。

食品科学科では研究室ごとに発表が行われます。研究室ごとの発表ということもあり、発表前はリラックスした表情だった学生も、いざ発表となるとやはり緊張した様子でした。来年度発表を控えている3年次学生だけでなく、最近研究室配属が決定した2年次学生も積極的に質問をしている姿が印象的で、活気に溢れた発表会となりました。



箱をテーブルに見立て、テーブルクロスを敷いたデザインに仕上げています。
キタウシリのブランドロゴと本学のプロジェクトマークにも利用されているウシがコラボしたパッケージを学生が作成しました！



▲オリジナルコンビーフ
三缶セット（1,800円税抜）

▲オリジナルコンビーフ
一缶（600円税抜）

※日本獣医生命科学大学生協で販売中

第70回 獣医師国家試験結果 2018年度動物看護師統一認定試験結果

◆第70回獣医師国家試験 結果
試験日：2019年 2月19日（火）・20日（水）
受験者：75名
合格者：74名
合格率：98.7%（私立大学で合格率トップ） ※合格率（全国新卒）96.9%

◆2018年度動物看護師統一認定試験結果
試験日：2019年 3月 3日（日）
受験者：87名
合格者：85名
合格率：97.7% ※合格率（全国）86.5%



関連記事
学内の様々なデータを収集・分析し、一部を紹介しています。
「データで読み解くニチジュウ」はこちら



吉村久志講師（獣医保健看護学科）が第6回日本獣病理学専門家協会（JCVP）学術集会にて、第5回JCVP奨励賞を受賞しました



3月28日～29日に開催された第6回JCVP（日本獣病理学専門家協会）学術集会にて、第5回JCVP奨励賞を受賞しました。この賞は、獣医病理学の進歩に寄与する優れた研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に贈られるものです。今回受賞した研究テーマは「長鎖ノンコーディングRNA H19の肝癌における発現と役割の解明」。

関連記事
【獣医保健看護学科ニュース】吉村講師インタビュー
・研究テーマについて ・今後の展望について ・受賞コメント など



長谷川大輔教授（獣医学科）が、公益財団法人てんかん治療研究振興財団より、2018年度研究褒賞を受賞しました

3月1日公益財団法人てんかん治療研究振興財団主催の第30回研究報告会が開催され、授賞式が執り行われました。今回受賞した研究テーマは「自然発生性てんかんモデルとしての家族性側頭葉てんかんネコの確立」。

関連記事
【獣医学科ニュース】長谷川教授インタビュー
・研究テーマについて ・研究対象（ネコ）について ・今後の展望について など



柳原奈央子さん（応用生命科学専攻M2年）が日本畜産学会第125回大会で優秀発表賞を受賞しました



本学大学院生の柳原奈央子さんが、3月27日～30日麻布大学で開催された日本畜産学会第125回大会で優秀発表賞を受賞しました。柳原さんは「酪農家のライフスタイルと1日1回搾乳の受容性に関する研究」と題して口頭発表を行い、その内容とパフォーマンスが高く評価されました。

関連記事
【動物科学科ニュース】
柳原さんの受賞に際し、指導教員小澤教授からのメッセージ



Information 教職員・学生の受賞情報等募集中!!

学長室・企画調査課では、教職員・学生が様々な活動における受賞情報等募集しております。ぜひご一報ください。

学長室・企画調査課 ir-nvlu1@nvlu.ac.jp （メールはこちら）



バイオ技術者認定試験結果

本試験はバイオ技術の進歩に対応した技術者の教育・養成を目的に、NPO法人日本バイオ技術教育学会が認定している試験で、本学では就職活動支援およびバイオ関連科目習熟度の自己評価として、中級試験（2年次以上）、上級試験（3年次以上）の受験（任意）を推奨・支援しています。

2018年度は12月16日（日）に本学を会場（在校生のみ）として試験が実施されました。本年度は3学科合わせて中級バイオ試験は101名、上級バイオ試験は17名が合格しました。上級試験の合格率においては全国平均を約10%ほど上回る良い結果となりました。

2018年度 本学学生受験結果
◆第27回中級バイオ技術者認定試験：
受験者数134名 合格者数101名（合格率75.4%）
◆第24回上級バイオ技術者認定試験
受験者数27名 合格者数17名（合格率63.0%）

（バイオ技術者認定支援委員会 委員長 近江俊徳）

【参考】全体結果
◆第27回中級バイオ技術者認定試験
受験者数1557名 合格者数1180名（合格率75.8%）
◆第24回上級バイオ技術者認定試験
受験者数521名 合格者数276名（合格率53.0%）

関連記事
本学学生（獣医保健看護学科2年次）が中級バイオ技術者認定試験の成績優秀者に選ばれました 受賞者のコメントはこちら



富士アニマルファーム 新牛舎完成



“願わくば、この牛舎を実習で使った学生たちが喜んでくれたら有り難い”
吉村牧場長が25年（実に四半世紀!!）の懸案事項であった牛舎の建替が決まり、富士アニマルファームでは昨年8月より旧牛舎の取り壊し、9月より工事を開始した新牛舎が今年1月下旬遂に完成しました！
1月末には牛たちが新牛舎に入り、新生活が始まっています。
4月18日（木）に実施した動物科学科の新入生オリエンテーションでは、学生たちにも披露されました。今後夏期に行われる富士アニマルファームでの実習を楽しみにしています。

関連記事
（上）新牛舎の建設にかかる牧場長の想いはこちら！
牧場だより「継・いのち」 第198号：新牛舎の建設
（下）新牛舎の内装はこちら！
学長室より、阿久澤学長の活動を中心に、大学広報としてニチジュウのヒトコマをお知らせする「学長室だより」
2019/02/01 046号



2019年度入学式挙行了しました 新入生行事続々と…

次回
特集



4月4日、平成31年度入学式が行われ、370名の学部生（獣医学科80名、獣医保健看護学科100名、動物科学科100名、食品科学科90名）と18名の大学院生を新たに迎えました。

新入生はオリエンテーションやガイダンス、新入生歓迎会、人権ワークショップなどのイベントに参加しました。また、4月9日からは授業が開始されました。次号（2019年7月発行予定）は新入生に密着取材を行い、ニチジュウの学生支援を紹介します。

関連記事
2019年度 入学式 学長式辞（2019年4月）



新任教員紹介

4月より本学に着任した2名をご紹介します

——まずはじめに自己紹介をお願いします。
大学院博士課程、および大学院研究生時代では、主に“循環器病学”の研究を行いました。私の中でも、心エコー図検査という画像診断による病態解析をメインに研究しました。最近では、心カテテル検査や心臓CT検査を加えたマルチモーダリティによる多方面からの病態解析を加えた研究を進めております。

修了後は小動物の一次および二次診療を行ってきました。様々な主訴や症状をもつ動物やそのご家族と共に、多くの疾患の診断や治療を経験しました。また、本学付属動物医療センターでは、“総合診療科”で専門診療科とは違った横断的な診療科を主に担当しました。多様な主訴や症状の中から疾患を導き出して治療を行うことは難しさを感じましたが、大変やりがいのある仕事でした。

——臨床現場で働かれた後、教員を目指そうと思っ
たきっかけはなんですか？
臨床だけでなく、研究や教育にも興味があつたためです。私自身は学生時代に多くの方にたくさんのことを教えていただいたため、獣医学に非常に興味を持つことができ、かつ楽しんで勉強に励むことができました。おかげさまで、今でも獣医学が大好きなんです！“好きこそものの上手なれ”。学生の皆さんにもまずは興味をもち、ぜひ獣医学（他学科学生はその分野の学問）を好きになってほしいです。そのために、自分の感じた面白さや醍醐味の伝わる、魅力あふれる授業や実習を目指したいです！



鈴木 亮平
(Ryohei SUZUKI)
2010年3月本学獣医学部獣医学科卒業後、同大学大学院にて博士号を取得。その後、一次診療病院に勤め、本学付属動物医療センターなどを経て現在に至る。

獣医学部 獣医学科 獣医内科学研究室 助教 鈴木 亮平

——今後の目標や意気込みをお願いします！
研究活動に関して、超音波検査を中心とした病態解析、早期発見、予後予測などを目指し、非侵襲的で臨床現場に応用しやすい画像診断に関する研究は継続していきたいと思います。さらに、循環器病学については最先端の研究活動を積極的に続け、獣医学に加え、人医学の発展にも貢献できるような研究を行いたいです。また、同じ研究室の学生には、研究の面白さも感じていただきたいです。そして最終的には、多くの犬や猫を助けるべく、臨床現場に貢献できたら良いと思っています。
診療活動に関して、一次および二次診療の双方の臨床経験を活かし、幅広く獣医療に貢献できるように尽力してまいります。
——学生時代を過ごした場所に教員として着任されますが、どんな心境ですか？
非常に光栄で、かつ嬉しく思っています。また本学の

獣医学部、そして私の着任する獣医内科学研究室は非常に伝統と歴史のある場所です。古き良き伝統を守りつつ、歴史に新しい風を吹き込めるよう精進し、責任をもって職務を全うしたいと気を引き締めております。
——最後に、在学生の皆さんへメッセージをお願いします！
遊びも勉強も一生懸命取り組んでほしいと思います。とくに勉強はこれほど広範囲に、そして充実して取り組めるのは今だけかと思います。ぜひ獣医学（他学科の学生はその分野の学問）について、幅広い知識を、どこまでも深く掘り下げて勉強してください。今しかできないかけがえのない時間を有意義に使ってください。教員としてはそのための手助けができれば幸いです。何かありましたら、ぜひ声をかけてください。



「人と動物が安心できる暮らしを 目指した研究の拠点」

日本獣医生命科学大学
学長 阿久澤 良造
本学は、学校法人日本医科大学が理念とする「One World・One Health」のもと、様々なものをつなぐ拠点となり、未来を作ることの意味する「Connect with the Future」をミッション・ステートメントとして掲げています。2019年度事業計画の基本方針として、「つなぐ誇り」・「力の結集」によって着実に実績を積み上げていくことを定めており、研究分野においては、「特色ある研究プロジェクトの推進と情報発信」が重点施策となっています。この研究プロジェクトは、中長期計画「ニチジュウライ図」にある研究分野のビジョンの一つである「世界をリードする研究『食・環境・生命（One Health）』」が、柱となり、「人と動物が安心できる暮らしを目指した研究の拠点」になることを目指し、全部局の教員、大学院生、学部生より寄せられた多数の研究シーズによって構成されています。この取り組みによって、大学全体の研究に弾みがつき、進展、活性化、更には大学のブランディングの向上につながります。引き続き、研究を進め、具体的な成果へとつながるように、積極的な取り組みに期待しております。



編集後記



「ニチジュウの研究力、結集」表紙に掲げた第66号のコンセプト。2018年度から始まった「特色ある研究プロジェクト」は2年目を迎え、更なるプロジェクトの活性化、そして多様な研究者同志の交流を促すために何が必要か？
それを知るために、ニチジュウの研究への取組みを知ることから始めよう、これが取材のスタートでした。取材の結果、多くの研究者が様々な研究に取り組んでいることを知り、ニチジュウの教員、大学院生、そして学部学生、更に研究者を支援する事務組織を含めた「ニチジュウの研究力の結集」こそが重要であると強く感じました。
2年目を迎える特色ある研究プロジェクト、どのような力が結集し、どのような深化を見せるのか、そして阿久澤学長が掲げた「人と動物が安心できる暮らしを目指して」がどこまで進むのか、今後も注目して広報活動してまいります。

次回予告

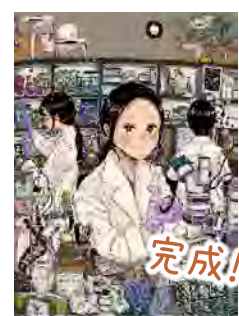
次号は2019年7月下旬に発行を予定しております。
テーマは「学生支援」です。
ニチジュウで行われている学生サポートの様々な情報を中心にお伝えいたします。



Vol.66表紙絵

獣医保健看護学科2年次 A.S.さん

今回のテーマは“研究”。研究には色々な形態があると思いますが、1番分かりやすいのは研究室の風景かなと思い、自分なりに遊びながら（研究室に夢を詰め込みながら）描きました。研究室の資料が少なく、パンフレットやホームページを漁るなど資料集めに大分時間がかかった記憶があります。部屋を物でいっぱいにしたかったので、本当にありそうなものからあったらいいなと思うものを詰め込んだ結果、実際にはあり得ないような空間になりましたが、細かいところまでたくさん描くことが出来て良かったなと思います。今回も特にモデルはいません。たくさん描き込んだので端から端まで見て頂けると嬉しいです。（おかしなメモが7つあります。良かったら探してみてください。）



ご意見・ご感想・取材依頼 募集中!!

大学報に対するご意見・ご感想をお知らせください。
また、ニチジュウベストショットへの掲載や「私たちこんな活動しているよ!」等の情報をお待ちしております。

担当事務：
学長室・企画調査課
ir-nvlu1@nvlu.ac.jp
(メールはこちら↑)



大学ホームページへの掲載

大学ホームページから、大学報「Hello,we are NVLU」をPDFで配信します。
<http://www.nvlu.ac.jp/universityguidance/023.html/>

電子版はこちらからどうぞ



Hello,we are NVLU(ニチジュウ)
—日本獣医生命科学大学報—
第66号(2019年4月号)

2019年4月26日発行

協力(以下敬称略)
学生：栗田晟那 土井寛大 川上翔太 小泉美穂 中山夏那 徳長ゆり香 漆山尚也 河西晴子 後藤智紗子 駒村衣美 石田悠華 岩本杏 永尾文哉 鈴木円香 竹口潤 青木達哉 増田紗也 根本香穂 卒業生：森笹柚香 小澤仁 柳橋努(富山県業事総合研究開発センター) 三木巴(公益財団法人日本小動物医療センター)
教職員：阿久澤良造 田崎弘之 長谷川大輔 近江俊徳 有村裕 戸塚護 田村恭一 塩川舞 小澤壮行 小林史幸 山本俊昭 江草愛 青木博史 鈴木亮平 田中亜紀
研究推進課の皆さん
Special Thanks：松田麻歩 渡邊直哉 その他ご協力いただいた方々ありがとうございました。

表紙／A.S.

編集・発行／日本獣医生命科学大学 IR推進委員会
(編集委員)
羽山伸一 近江俊徳 野瀬 出 高橋 勝 大沼友美 服部沙由花 上野美可子

印刷／ライオン企画株式会社



田中 亜紀 (Aki TANAKA)
1998年3月日本獣医畜産大学獣医畜産学部獣医学科卒業。2002年に渡米し、カリフォルニア大学デービス校(UCD)において環境毒性学を学ぶ。その後シェルターメディスンの研究に約17年間従事し、現在に至る。

獣医学部 獣医学科 野生動物学研究室 助教 田中 亜紀

——まずはじめに自己紹介をお願いします。
2002年に渡米後、カリフォルニア大学デービス校(UCD)において環境毒性学を学びました。その後はUCDで、米国でも新しい獣医学的分野であるシェルターメディスンの研究に従事しました。シェルターメディスンは「伴侶動物の群管理」とも定義されていますが、いわゆる動物の収容施設(シェルター)に特化した獣医療です。シェルター内の動物福祉の向上を図ることを目的としています。シェルター内の動物だけでなく、シェルターに入ってくる動物(シェルター予備軍)や、シェルターから出て地域に戻る動物達のことも対象として管理しなければならない地域医療であり、総合医療です。シェルターに動物が来ない対策も同時に考えていくことが重要です。しかし一方で、様々な理由でシェルターに収容されなければならぬことがあるものの現状で、「災害」もその一つです。災害が発生し、人が被災すれば動物も被災し、行き場所がなくなれば、シェルターに収容され、シェルターメディスンが必要になりますし、災害時の動物管理という分野で災害獣医学もあります。また、最近取り組んでいるのが動物虐待等へ対応する法獣医学です。虐待された動物の多くはシェルターに収容され、その際の適切な虐待の評価が極めて重要であり、まだまだ日本では虐待に関わる調査研究は未発達な分野です。これまで、日本にはなかった様々な獣医学的分野を中心にUCDでは取り組んでいました。

——本学の雰囲気など、ご自身が学生として通われていた時とは違いますか？
私が学生だった時はまだグラウンドがあり、そこに牛や豚、様々な動物が寝そべってありました(笑)また、私の所属していた野生動物学研究科ではサルをたくさん飼育しており、当番もサルとの格闘の毎日だったことを覚えております。
今は本学もすっかり整備され、その時の面影もなく、また、雰囲気も都会的に洗練されたように思います。

——学生時代を過ごした場所に教員として着任されますが、どんな心境ですか？
なじみ深い母校に教員として着任させて頂いたことを大変光栄に思います。違った立場でキャンパスにいるのが不思議な感じではありませんが、とても嬉しくも思います。

——最後に在学生の皆さんへ一言お願いします！
獣医師は「社会の役に立つ職業だ」ということを常に意識していただきたいと思います。動物の病気を治すだけでなく、災害時や動物虐待という反社会的行為にも対応し、地域の安全や治安の維持にも貢献できるのが獣医師です。また、環境衛生や公衆衛生にも寄与するのが獣医学でもあると思います。One Healthを常に念頭に、広い視野を持った獣医師になっていただけるように私も尽力致しますので、どうぞよろしくお願いします。

nichistagram

#新たなスタート

Related Hashtags : #ご投稿くださった皆さま #ありがとうございます #次回もまた #投稿してね



nvlu_89



#新キャプテンなばちゃん #頑張れ
おっくん! #まだまだ部員募集中



asakura_banzai



#臨床病理 #室長仲間外れ
#楽しい楽しい研究室



N_shinkan_iinnkai



#獣医保健看護学科
#新入生 #食事会



kendo_nvlu



#剣道部
#新入部員募集中(^O^)/